

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	3・4	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	ジェンダーに関しては、身近な問題でありながら意識されていない場合が多い。そのため、最初の授業でCM映像やアニメや絵本などを教材として使用し、無意識のバイアスに気づくように授業を組み立てた。その後の授業でも、講義以外の生活の場でも学習の目を向けるよう教材を選んだ。観光文化学科であることから、国際的な視野で日本の現状の課題を考えられるようにテキストを活用した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業の中で、提出されたミニレポートでは、ほとんどの学生がジェンダーを自分の問題としてとらえる力は身につけていた。試験前には、学習方法を指示し、その結果、ほとんどが高い評価となった。授業の感想においては、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題に関心を持ち、自分の考えを述べることのできる思考力が確認された。選択科目であり、テーマに関心の高い学生が集まったため意欲関心は高かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	試験結果から、現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題を歴史的、構造的、国際的への理解が十分に達成できたといえる。また、思考判断や意欲関心についても達成されており、おおむね内容的妥当性は認められる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	学生数が少なかったため、講師と学生、学生同士で意見を交換しながら授業を進めることができた。映像資料やデータ集を使用し、ミニレポートなどにも時間を割き、主体的な学びの場となった。また、テキストの内容は講義ごとに板書にて確認し、ノートをとることで、理解を深めることができたと思われる。今後は、ワークシ ョップ形式をもっと取り入れて、授業中での意見交換を活性化していく。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	ジェンダー論については、もともと知識のある学生と全く初めて接する学生に分かれていたが、最終的には基礎的な知識を身につけたものと思われる。今後は、自 分の言葉で人に伝える力を得ることが課題である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	3・4	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	経済学は数理傾向が強い。その傾向をできるだけなくし、生活において大切な部分を提供するように努力したいと考えている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席をしている学生は、優秀な成績を修めていました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	最近の経済学に関する知識を理解できていると考えられる。また、身近な問題を解くことで、思考力も鍛えられると考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に
お示ください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、
インターネット利用」学生の意見など

できるだけ身近なテーマに変えていきたいと思っています。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

ノーベル経済学賞を受賞した内容を提供するように心がけている。次年度は、行動経済学等の動向を紹介しようと考えている。

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習C	3	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	テキスト選択に当たってはTOEIC L&R TEST (以下、TOEICと略記)に特化した演習科目であるので、実際のTOEICテストと同じ構成内容で、またテキスト中の音声 が全て無料でインターネットからダウンロードして利用できるものを選びました。本テキスト巻末にBridge Practiceの自習用の問題が収められているので、受講生が 授業時間外に取り組んでもらう一種の「持ち帰りテスト」として利用するために解答用紙を、別途、作成し、また各自の得点の推移が把握できるように得点記録表や 音声のスク립ト(読み上げられている音声の活字化)も配布できるように準備しました。テキストのリスニングパートは授業内にテストとして実施し、回収、採点して返 却したものを参照しながら授業を進めるための準備をして授業に臨みました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生14名のうち、就職活動(以下、就活と略記)を伴う4年生が12名を占めた本授業では毎回、三分の一を超える欠席者がいて、授業の進行が困難であり、授業中のリスニングや提出を求めた課題も平均値が取りにくい状況でしたが、最終的に、100点満点で平均点が75点前後になるようにレベル調整した学期末試験の平均点が71点であったこと、授業中のリスニングや課題のBridge Practiceの平均が、出席者や提出者だけに限定すれば60～70%の成績であったことを鑑みて「やや達成された」と評価しました。ただ、残念ながら全受講生の中で欠席0の受講生はいなかったことや、学期の途中で4回欠席の報告をしなければならなかった受講生が9名にも及んだことを考慮するならば「どちらともいえない」評価に近いとも言えます。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけは、TOEICテストに特化し、TOEICの得点力の向上を最終目標とする授業として、十分に妥当であると考えます。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業を進める上で、受講生個々人の英語基礎学力に個人差があることは実は問題ではなく、むしろ、授業に対する熱意や意欲の面に個人差が大きいことを問題にすべきで、授業担当者としても、まずこの点を改善する方策がないか模索しています。 また特に選択科目では、初回の授業や2回目の授業には暫定的に出席して、2回目から、あるいは3回目から受講を始めるという受講生もいて、初回からテキストを用いて本格的に授業に入ることが出来ませんので、最初は、どうしても授業の説明やオリエンテーションを主にせざるを得ませんが、今後、少しでも改善できないか、その方策も考慮中です。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	今回は全受講生14名のうち、一度も欠席せずに授業を受けた受講生は、残念ながら皆無でした。就活が避けられない4年生が12名を占め、圧倒的多数であったとはいえ、このような授業以前の問題は、授業を最優先にする意識を強くすることで、すぐに改善されることだと思います。就活で欠席する4年生には、欠席届を提出する時に、必ず会社が発行する受験証明書を添付してもらいましたが、多数の証明書の中に、偶然、「この面接日が不都合な場合には、別の日に変更できます」と欄外に明記されている証明書に気づきました。この4年生は結局、会社の受験日を変更せずに、授業を欠席しましたが、おそらくは何か特別な事情があつて受験日を変更せず、授業を欠席したのだと受け止めていますが、授業優先の意識が希薄な4年生もいるのではないかと考えさせられました。言うまでも無く本科目のような語学の演習科目では、授業は、受講生と教員のコラボレーションであり、教員や受講生のどちらか一方だけでは成立しません。普段から授業優先の意識を高めて欲しいと願うと共に、授業担当者としてもこのような授業以前の方面での改善策を考えているところです。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
時事英語入門	3・4	前期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	時事という分野は、難解なイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた英文記事の背景知識にも言及し、それらを日本語で説明することで、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。そのため、できるだけ新しい内容のニュースをリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にもニュースや時事事項にふれる機会を意識的にもたせるため、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に時事英単語の中間試験を実施した。リーディングに関しては、入門というクラスの性質上、比較的短い分量の記事を1回の授業で2～3本読ませ、授業時間内に単語の反復練習を実施して、内容の理解と記憶の定着を図った。リスニングに関しては、ディクテーションスタイルを採用し、放送される英文の速度を2段階に分けることで、正しい単語の聴き取りを徹底した。今年は英語学科との合同クラス編成だったが、昨年に比べて受講者数がやや少なかったことで、個々の学生の理解度を把握することができた。また学科間で到達度の差異が顕著に表れた結果となった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない				どちらともいえない	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP5の技能表現に関しては、中間試験の平均点が、30点満点中20.3であった反面、定期試験については50点満点中13.9と半分以下の結果となり、中間と定期とで、平均値が対照的な結果になった。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点中9.6という平均値が出ている。昨年よりも受講生が減ったため、ほぼ全員が指名以外に自主的に発言した結果と思われるが、出席して発言した翌週に無断欠席による減点により、結果として平均値が半分以下になっている。この点に関しては、「発表した翌週に無断欠席をするとそのポイントが消滅する」ということを開講時に伝えていたが、徹底されていなかった。受講生の学習姿勢は全体的に良好であったが、前述のような理由で得点が安定することなく、中途半端な結果になったことから、教育目標が達成されたのか判断が付きにくく、どちらともいえないという結論に至った。なお今年度の後期の授業から、シラバスの補足資料として、出欠に関するルールを文書化して、初回の授業で配付することを実践した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	事事的分野は、普段学生が意識しないとふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた内容の理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様、中間・定期試験の結果が、こちらの予想に反して、正答率が低かった点が懸念材料である。英語学科の再履修生の結果もそうだが、今回は観光文化学科の学生の欠席や遅刻が多く(受講者23名中無遅刻無欠席6名)、内容理解がおろそかになっている受講生もいた。時事英語は背景知識も英文を読むうえで欠かせないので、授業ではそうした点も説明をしながら丁寧に進めたが、結果として試験の得点低下につながった。また、定期試験の答案をあらためてチェックしたところ、完璧に解答できている設問と解答が無記入になっているという答案パターンが多かった。この点に関しては、試験前に復習などの時間を創出し、あらためて学習した内容の理解・定着強化を図るべきであった。今後の課題として、欠席した場合のフォローアップを教員サイドからより積極的に行うようにしたいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。実際、自由記述においても、「とてもためになる授業だった」「テレビでみているニュースのキーワードについて英語で学ぶことは、新鮮でした」など好意的な意見が記入されていた。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、毎時間復習する時間を設けるようにしたい。特に、最終授業日は内容確認などの復習に割り当てるなど、柔軟な授業展開行うことも今後積極的に検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
消費者行動論	3・4	前期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「消費者行動論」は「マーケティング入門」と対をなす科目である。そのためシラバスでも同時履修を推奨している。この科目では企業マーケティングの基本である「消費者を知ること」を主眼としているが、消費者行動論を理解するためには、関連の専門用語の理解が必須である。その解説と理解促進に重点をおいている。授業テキストは特に用いていない。実際の企業経営の中心課題であることは周知の事実であるが、本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されていない(2018年新カリキュラム実施により経営学入門科目が導入されたのでこの記述は現2年生以上の学生に適用する)。その為、学生の興味喚起のために観光・旅行系などの企業経営、自治体など団体組織おけるマーケティングと消費者行動理解を促している。また、消費者行動に興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業組織・経営の基礎理論を学習したことのない学生にマーケティング・消費者行動への興味・理解をさせるために新聞・テレビなどの経済経営記事に慣れ親しむ事を学習準備として示している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎年受講生レベルが違い、毎週軌道修正しながら授業進行しているが、内容的に多少の難しさはあったと思われる。昨年度より授業開始時に前回授業の振り返りを行い、理解促進に努めた。改善課題としてはマーケティング入門の関連科目のため、双方の授業内容と進行状況を常に確認する必要がある。アンケートの到達度自己評価、授業の質評価項目についてみると、上記目標状況は「やや達成された」と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティングの基礎知識としての経営学を学んでいないというカリキュラム体系上の欠陥から、厳密な内容妥当性ではない。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	グループワークなど授業の進め方については学生の興味喚起を目的に導入を考えているが、ディスカッションを取り入れ、コミュニケーション力、表現力等の養成も検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	科目目標はやや達成されたとと思われるが、学習量が受講生に多く(25名)いるため課題内容、レポート内容など工夫したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
欧米観光文化地理Ⅰ	3・4	前期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では欧米の中において特に西欧の観光文化地理について授業を行なった。西欧(あるいはさらにその各国、各都市の)観光文化、社会、地理などの形成と特徴について詳細に論じた。西欧は学生達に渡航先として人気のパリやローマ、ロンドン、ウィーンなどを含んでおり、興味関心を喚起するよう心掛けた。授業にあたっては以下の工夫をした。 ①西欧については日本のメディアにもよく取り上げられはするが、(特に世界史を学んでこなかった学生にとっては)深い部分についてはあまり馴染みがないだろうと考え、授業の前提として歴史や政治経済、社会についての概説も行なった。 ②2回に渡って中間レポートを課した。内容は西欧における観光事情についてであり、観光ルートの提案を示してもらうなど、調べるだけでなく、考えてもらう作業も行なってもらった。レポートの評価については両方とも「秀」や平均して「優」を取る者が計5名出たが、一方、両方とも提出したが両方とも及第点に達さなかった者も2名出るなど、大きな個人差が見られた。 ③期末試験は論述形式のものとし、一定の時間内で論理的・説得性のある文章を書いてもらうことを求めた。期末試験の評価については、「秀」が7名、「優」が2名出た。3名は「可」であったが、「不可」はいなかった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は21名であり、昨年同時期の8名から2.6倍増となった。学年の内訳は4年生が20名、3年生が1名であった。ほとんどが4年生で占められており、最終学年として総じて落ち着いた雰囲気の中、授業を行なうことができた。 授業評価アンケート(回答者14名。以下、特記のない場合は同数)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは0名、CiNiiなど学術データベースの使用も同じく0名であった。インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は3名という結果となった。就職活動など進路関係での活動と重なる時期であり、履修者の多忙さを考慮するとやむをえないとも言える。 出席状況についても、上記と同様、多忙な時期であり、皆勤は僅か1名、次に良好なものは2回欠席(3名)と概ね振るわなかった。中間レポートや学期末試験の出来などから総合的に評価した結果、単位自体は定期試験受験不適格者を除き、19名中17名に付与することができた。一方、その内訳は「秀」1名、「優」3名、「良」5名、「可」8名(再試での修得者2名を含む)であり、上述のように多忙な時期での履修ということで、上位の成績の割合が低い結果となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケートによると、「受講動機」(回答者12名)は「単位数を確保する」が9名で選択率75%であった。4年生が履修者のほとんどであったが、その中でも多くが単位数不足のため履修していたことも明らかになった。次いで「関心のある内容である」が4名、選択率33%であった。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.1から3.4の間の評価であった(5点満点)。最高である3.4は「自分なりの目標を達成した」などの4項目あった。3.1であったのは「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と「職業選択の参考になった」の2項目であった(本科目は実務科目ではないため、後者はそもそもあまりそうした性格を持たない)。進路関係の活動で多忙な時期ではあるが、少しでも知的好奇心を喚起できるよう、たとえば興味深い図表を多用するなどこれからも工夫したい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートによると、予習時間は0が最も多く9名、次いで1時間半～3時間が3名、30分～1時間が2名であった。復習時間も予習時間と比率とまったく同じであった。前述したように、総合評価において「秀」「優」は計4名であったが、これは予習・復習をしてくれた者の数とほぼ合致している。多忙な中ではあるが、努力してくれた者にはこの分野でのしっかりとした教養が身に付いたものと判断している。なお、ノートテイクは13名とほぼ全員が行なってくれたが、授業の課題以外の学習に取り組んだ者は0であった。 授業アンケートの自由記述では「担当教員への意見」として、「ヨーロッパに行きたくなくなった」、「ヨーロッパの良さが知れました」とあり、観光を学ぶことを通して西欧の創造性、先進性を理解してくれたと考える。また、「課題レポートのテーマが良く、勉強になった」旨を書いてくれた者もいた。良いテーマを課すことができ科目担当者もうれしく思っている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ここでは総括として授業評価アンケートにおける「授業の質評価」を見てみよう。5項目あるが、先の「到達度自己評価」同様、すべて3.1から3.4の間に収まっている(5点満点)。3.4は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、3.1は「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」である。このようにすべて「普通」(「まあまあそうだと思う」)の評価であった。多忙な中、履修してくれた学生達に答えるためにも、今後ともなるべく意見のしやすい雰囲気作りや視覚的にわかりやすいよう知的でおもしろい図表・事例を増やし、西欧に関心を持ってもらえるよう、さらに深く伝えることができるように努力したいと考える。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光ハングル	3・4	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	科目名からして主に観光を目的としたガイド的講義のイメージで受講する傾向がみられた。受講動機にも「関心のある内容である」が60%を超えていた。授業初回に学習状況に関するアンケートを実施し、文字を学びながら、同時に韓国の文化や観光情報も学びたいと考えている学生が多く、韓国の文化事情などの話題をより多く紹介したり、具体的な事例をあげながら関心を引くよう工夫していった。文法学習については、多くの受講生が興味をもっているK-POPや韓流ドラマで登場するフレーズなどでもできるだけ取り入れつつ学生の興味を刺激し、学生が自発的に課題プリントや宿題などで学習時間を増やし、楽しんで語学力を身に付けてもらえるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベルに達したと考える。宿題や課題の提出率はほぼ100%であった。学生評価には「楽しく学ぶことが出来た」との意見があった反面、授業ではどうしても標準的レベルの学生に合わせた進行となるために語学レベル面で物足りなさを感じている学生もあり、意欲のある学生には自主的にどんどん学習できるように、到達度に応じた課題プリントなどを検討したいと思う。また、到達度自己評価においては「学びを深めたいと意欲をもつことができた」において平均値、中央値が4.0であったことから、学生の韓国語学習に対する自発的な学習意欲を刺激できたという面で、教育目標は達成された方だと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は「ツーリズムおよび地域社会に関わる課題解決に向けての専門的スキルを身につけている」という点から評価される授業であるが、語学だけではなく韓国の文化や国事情を学びながら日本と韓国の橋渡しが出来る技量を身につけることが目的の講義であり、上記のカリキュラムマップの位置づけからみて内容的に問題は無いと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は定期的に行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、 つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終 テストでは全員の平均点が高く追試対象者は0であった。一方課題として は授業の回数からしてすべての韓国を切り取ることは出来ず、受講生 に韓国へのより深い理解を促すためのテーマ選びに工夫が必要がある と考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	当講義においては教育目的達成において、基礎的な語学力や情報分析 力、異文化への理解力、二国間における課題解決力等において一定の レベルを受講生が身に付けてくれたと考える。今後の課題としてはこの 授業をきっかけに、自ら課題をみつけ、考え取り組んでいけるよう知 的好奇心を刺激するような授業にしていきたいと思っている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ツーリズム英語	3	前期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目については昨年度より複数の学生から「難しい英語はイヤです」という旨、意見を頂戴した。その一方で、しっかりと観光学の専門を身に付けて欲しいという科目担当者の意図もあり、テキストとしてAgatha Christie(1934)“Murder on the Orient Express”の簡易版(IBC/パブリッシング)を用い、これに平井正(2007)『オリエント急行の時代 ヨーロッパの夢の軌跡』中公新書などを併用した形で、1900年前後の欧州における鉄道旅行について学ぶスタイルを取った。授業にあたっては以下の工夫をした。 ①テキストは(内容を損なわず)平易な英語で書かれており、読みやすいものを採用した。 ②テキストの予習・復習を促した。 ③期末試験は行なわず、その代わりに3回のレポートを課した。調べるだけでなく、考えてもらう作業も内容として盛り込んだ。レポートの評価については「秀」が9名、「優」が8名、「良」が9名、「可」が10名、「不可」が8名となった(定期試験受験不適格者2名を除く)。このように、概してレポートの評価は分散した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			どちらともいえない	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は46名であった。内訳は4年生が25名、3年生が21名であり、2つの学年で人数がほぼ半々となった。傾向として、4年生は最終学年として総じて落ち着いた雰囲気であったが、一方で就職活動など進路関係での活動と時期が重なり、欠席や遅刻・早退も目立った。3年生は私語が多く、度々注意することとなった。授業評価アンケート(回答者26名。以下、特記のない場合は同数)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは0名、CiNiiなど学術データベースの使用も同じく0名であった。インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者も僅か1名という結果となった。4年生は就職活動など進路関係での活動と重なる時期であり、履修者の多忙さを考慮するとやむをえないとも言えるが、3年生もこのような状況になったのは残念である。 出席状況については、皆勤0、次に良好なものは1回欠席(3年生の3名)と概ね振るわなかった。先に挙げたレポートの評価に学ぶ意欲などの平常点を加味し、総合的に評価した結果、単位自体は定期試験受験不適格者を除き、44名全員に付与することができた。その内訳は「秀」8名、「優」5名、「良」11名、「可」20名(追試での修得者1名と再試での修得者3名を含む)であり、平常点により、レポート点の「優」だった者が僅かに「良」に移行、同様に「不可」だった者は「可」に移行したような形となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケートによると、「受講動機」(回答者24名)は「単位数を確保する」が17名で選択率71%であった。4年生が履修者の半数強を占めたが、その中でも少なくない割合の者が単位数不足のため履修していたことも明らかになった。次いで「関心のある内容である」が7名、選択率29%であった。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.2から3.5の間の評価であった(5点満点)。最高である3.5は「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の2項目あった。3.2であったのは「職業選択の参考になった」であった(本科目は実務科目ではないため、そもそもあまりそうした性格を持たない)。4年生は進路関係の活動で多忙な時期ではあるが、3年生においては卒業論文などに向け、知識や考察力を涵養する時期であり、もう少し私語を減らし、授業に集中してもらえるよう、これからも工夫したい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートによると、予習時間は0が最も多く11名、次いで30分～1時間が10名、1時間半～3時間と3時間半～5時間が2名ずつ、5時間半が1名であった。毎回、学生にまとめた英文を日本語訳してもらうため、少なくとも予習は欠かせないが、0も多い結果となった。復習時間も0が最も多く14名、次いで30分～1時間が8名、1時間半～3時間と3時間半～5時間、5時間半がそれぞれ1名であった。前述したように、総合評価において「秀」「優」は計13名であったが、これは予習・復習をしてくれた者の数とほぼ合致している。4年生は多忙な中ではあるが、努力してくれた者にはこの分野でのしっかりとした教養が身に付いたものと判断している。なお、ノートテイクは6名が行ってくれたが、授業の課題以外の学習に取り組んだ者は1名であった。担当教員と学生が力を合わせて、良い授業を築き上げていきたいものである。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ここでは総括として授業評価アンケートにおける「授業の質評価」を見てみよう。5項目あるが、すべて3.3から3.5の間に収まっている(5点満点)。3.5は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、3.3は「説明は理解しやすいものであった」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」である。このようにすべて「普通」(「まあまあそうだと思う」)の評価であった。4年生を中心に、多忙な中、履修してくれた学生達に答えるためにも、今後ともなるべく意見の出やすい雰囲気作りをしたい。また、観光学の中のさまざまな分野、さらに当科目では外国語や欧州に関心を持ってもらえるよう、より深く伝えることができるように努力したいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ツーリズム中国語	3・4	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目、「ツーリズム中国語」は中国語による観光ガイドできる人材を養成する授業である。授業終了後、学習者はツーリズムの業務を遂行できるように以下のことに重点をおき授業を計画した。 1. きれいな発音、丁寧な言葉使い 2. 要点をしっかりと押さえた簡潔な説明 3. 文化風習の違いや不注意によるトラブルをできるだけ未然に防ぐははっきりとした注意 4. ハプニング発生時に思いやりがあり、しかも過不足のない適切な対処 今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が100%であり、学習者全員関心を持っていることを知った。 授業では、学習者は積極的に学習し、授業計画は予定通りに実行することができた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績も理想的レベルまで達している。 学生による到達度自己評価において、(1)自分なりの目標を達成した、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、(3)事象を理解する視点や考え方を得ることができた、(4)自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた、(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた、以上5項目の中央値はすべて5.0である。また、(5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた、(6)自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、以上3項目の中央値はすべて4.5であることから、満足できる結果であると言える。 (9)職業倫理や行動範囲について学ぶことができた、(10)職業選択の参考になった、以上2項目の中央値は4.0であることから、来年度はここを更にはっきり説明する必要があると感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容の妥当性 本科目は観光文化学科の「専門教育科目」という重要な位置にある。学生には「分かる、できる」を徹底させる必要がある。学生全員が優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「授業の質評価」(3)説明は理解しやすいものであった、(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、以上の2項目の中央値は5であり、残りの3項目の中央値は4.5であることから、内容的には妥当であったと考える。 ③自由記述の意見 自由記述は、「すごく楽しかった」などのコメントがあった。これらの記述からみて、内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習者の学習状況を常に確認し、無理のないように授業を進めていた。 授業の質評価や学生のコメントからも本科目の授業の進め方は妥当であると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業計画は予定通りに実施でき、学生は優秀な成績を修めたことから、この授業は総括的に見て成功したと言える。 今後は今年のような到達度を維持できるように頑張りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光フランス語	3・4	前期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	志望動機は全体の73.1%が「関心のある内容である」と回答したことから、未知の語学である観光フランス語に対する興味・関心・期待の高さが伺えた。この授業では、興味関心を持続させられるような、フランスの歴史や文化にかかわる映像を毎回視聴するよう準備した。テキストは「文法説明」は最小限にとどめ、具体的なシチュエーションを設定し、ペアワークによってフランス語を実践的に使うことを重視した。就職活動による欠席者が多いことが予想されたため、前回の授業内容を復習する時間を設けたほか、インターネットによる学習を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は69.7点(±9.1点)であり、6割が標準的レベルに達した。S評価は33名中で5名(15%)、A評価は10名(30%)、B評価は4名(12%)だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えた割合は、DP5「技能・表現」に関して約59%という結果で、半数以上は目標達成したと考えていることから「やや達成された」と判断する。「まあそうだと思う」と回答したのは40%で、「そうでないと思う」という回答は無かった。学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったのは61%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、どの項目も評価は高かった(平均値は4.1から4.3)。自由記述には「たのしく授業を受けることができた」「フランス語がとても楽しかった。映像もバランスがよくて楽しかった。また授業をとりたい」とあった。この授業は、内容的に妥当性があったものと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「観光フランス語」という本学独自の専門的な科目においては、広汎なテーマが考えられ、一般的な指標のようなものも存在しないため、何を学ぶべきか見極めることと、教材準備、テキストの扱い方には気を使った。結果、授業で毎回、具体的な達成目標を提示したことで、やるべきことをやったという満足感が得られたのだと思う。また、インターネットの学習サイトで小テストを受けることを課題とし、遅れを取り戻せるよう心掛けた。ただ、テーマを絞るあまり、せっかく購入したテキストを部分的にしか扱えないことには「勿体なさ」を感じる。授業中にできることには限界があり、学外で自ら学べるよう、テキストの使い方をさらに研究したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「観光フランス語」では、実際に現地に行った際にフランス語をある程度使えるようにするという明確な目標がある一方で、まだ行ったことがない段階で本当に「使える」かどうかを自己判断することは案外難しい。その中で、映像を使ったフランスの様々な文化紹介と、「実際に行った気分」でフランス語を使ってみるという「教室の雰囲気づくり」は重要で、「旅する気分」の盛り上げに努めた。このことが到達度自己評価のある程度の達成につながったと評価する。今後も「いまのフランス」の魅力を伝えられるよう情報のアップデートを行い、興味関心を持続させられる授業づくりを常に考えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3・4	前期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業はビジネスに関する専門科目として位置付けられている。毎回の授業においてレジュメを作成し、配付することで貿易の基本的な知識と流れを説明していった。その成果が「授業がわかりやすかった」というコメントに見て取れる。
---	--

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DPの平均値が概ね3.7～3.9をマークしており、授業アンケートも「授業がわかりやすかった」との自由記述がある。但し、図書館等の利用に関しては使用した学生が極めて少ないことから意欲関心といった項目については他の項目に比べて達成度が若干小さいと考えている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP上の本科目の位置づけは、受講動機の値が概ね3.7～3.9を示していることから内容的妥当性はあると考える。またCPについても本科目は経営系科目の総仕上げ的性格を有していると考えられるため、内容的妥当性があるものとする。以上より本科目の内容的妥当性はあると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目は3年次に配当されている経営系科目で発展的内容を扱うことが予定されているため貿易論の授業をおこなったが学生にとって内容が難しかった点はない。今後の予定としては貿易論を扱うにしてももう少し入門的な内容を扱うことを課題としたい。ただし、授業の質の評価に関しては「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」という項目以外はすべて4.0以上の平均値をマークしているため授業の一定の成果はあったもの と考える。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は経営系科目の総仕上げの性格が強いため本年度は貿易論を扱ったが、学生の本授業に対する関心も比較的高いことから次年度以降は今年度の授業成果を踏まえ授業内容の一部変更を踏まえて検討したいと考えている。具体的にはモノだけでなくサービスも対象とした貿易論の展開、もしくはEコマースの進展といった分野について検討したいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジア観光文化交流論	3・4	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機をみると「単位数を確保する」64. 4%、「関心のある内容である」49. 2%、「友人が履修している」6. 8%、「先輩に勧められた」3. 4%となっております。もっと学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート作成と発表)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84. 2点であり、再試対象は0名であった。全員が目標のレベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては95. 1%、意欲関心に関する問題は95. 1%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館の利用に関しては、3. 2%で、インターネットの利用に関しては、8%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度が目標のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジア観光文化交流論」となっており、インバウンド観光を勉強しているので、「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある。学生も良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、次年度でも、引き続き学生が積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「観光産業界での就職」をつなぐ要の位置にある「アジア観光文化交流論」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心 I	3・4	前期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This first term course focused on providing English Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 6 criteria passive participation 15%, class tasks 27%, class preparation 14%, Ccasswork 16%, active participation 3%, and a final test 25%). Student scores were well-balanced from the 60s through the 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will include focused class preparation assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	I remain pleased that the two departments each have their own classes as it has improved the learning opportunities for all students.
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
広告宣伝論	3・4	前期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	広告宣伝は、企業マーケティングの重要な要素であるが、本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置されていない(2018年新カリキュラム実施により経営学入門科目が導入されたのでこの記述は現2年生以上の学生に適用する)。そのため企業経営におけるマーケティングおよび広告宣伝の役割の理解に重点をおいている。また、広告への興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業経営を学習したことのない学生にマーケティングへの興味・理解をさせるために新聞広告、CMなどの広告に慣れ親しむ事を学習準備として示している。本科目の特性として、社会、消費者動向変化に対応する最新性が重要であり、企業としての広告活動の実際を学ぶため、学外講師(広告会社)を招聘しての講義、思考・表現能力の向上を目指したテーマを与えたグループワークによる企画・プレゼンテーションをおこなった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	上記授業準備で述べた通り、体系的なカリキュラム構成による「経営におけるマーケティングの理解が困難なため、あくまで「マーケティングにおける広告とは何か」への興味を促進することが大きな目的であるため、映像、ビジュアルなど多用しているが、アンケート内容にから達成されたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できるが、基本的問題としてマーケティングの基礎知識としての経営学を学んでいないという、カリキュラム体系上の欠陥から、厳密な内容妥当性ではないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	外部講師授業、グループワークなど授業の進め方については学生の興味喚起を 目的に導入し、問題ないと考えているが、ディスカッションを取り入れ、 コミュニケーション力、表現力等のさらなる養成も検討していく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量が受講生に多くいるため 課題、レポートなど工夫したい。来年度以降について新カリキュラムで 導入された「経営学入門」履修により企業経営・組織について知識の習得を 踏まえた授業計画・内容としたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	松笠 裕之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
宿泊産業論	3・4	前期	選択	いいえ	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は、専門科目として配当学年が3・4年生ということもあり、専門的な内容となっている。また、教員のホテル勤務を通じて得た体験や経験、また、人事担当者として大卒採用面接なども講義の中で取り入れている。講義内容は、人文科学の歴史、社会学の分野におけるホテルの起源並びに歴史の変遷を中心に学ぶことと、社会科学の経営学の分野におけるホテルマネジメントの2つの分野の多面的な学問領域によって学際的な内容となるように構成されている。また、職業教育の一環としてサービス産業におけるホテル業の実務的な面も講義に取り入れて受講生全員が興味を持つような話題を中心に授業を行っている。毎回の授業では、パワーポイントとレジメを使って、前回の復習に始まり、授業のポイントを各自で記入するようにして記憶を促進するよう工夫している。最後に出席表に本日のポイントの復習点を整理させ、毎回の授業に対するコメント、疑問などを書かせて完結するように工夫している。さらに、期末テストで一夜漬けで覚えることがないように中間テストを実施している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業への出席状況並びに毎回のリアクションペーパーと中間テスト、最終テストの計2回の筆記試験を基に成績評価を行った。まず、出席率については、全出席(欠席0)が45%(前年度41%)で1回又は2回の欠席者を含めると83%(前年度80%)の出席率であり、出席率は非常に高く、欠席が少ない授業であった。次に成績では、(秀)評価28%、(優)評価34%、(良)評価20%、(可)評価13%、(不可)評価5%で(秀)評価と(優)評価で62%と学習効果が高いことが数字で示されている。これは、中間テストにより範囲が絞られたことで学習効果が上がったと思われる。また、授業評価アンケートでは、ホテルがどのようなものなのかしれてよかった、話は面白かった、毎回、知りたいことや疑問に思っていることに応えてもらえる時間があって、興味があることについての知識がたくさん得られてとても面白い授業でした、もっといろんな話を聞きたい、とても分かりやすく楽しい授業でした、という感想があった。また、各授業終了時のリアクションペーパーでは、ホテルに対する見方が変わった、いままで興味がなかったけどこの授業で興味がわいたという意見が多かった。さらに授業の内容をホテルでのアルバイトに活用したり、ホテルの仕事に興味を持ち、将来の就職先の候補として考えるようになった学生なども居たため、実践的な部分での成果が確実に出ていているものと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全ての講義で必ずリアクションペーパーを学生に書かせることで学生自身の授業におけるポイントの確認と学生の疑問点並びに傾向を確認できる。次回の授業では、授業のはじめ10分程度必ず復習を行い、リアクションペーパーへのコメントと疑問に答えるように工夫している。人数の関係ですべてのコメントを紹介できないのは残念であるが双方向式の授業として成績面においても成果が出ていると思っている。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この授業における目標である理論と実務両面の知識獲得については達成できたと思える。実務的な要素が強い講義であるため、最新のニュースや話題などを取り扱った視聴覚教材なども使って理解促進を図りたいと考えている。また、リアクションペーパーを使って双方向型の授業をしているが疑問に回答するのが次回ということで時間差があるため、リアルタイムに疑問に答えていけるような工夫を検討していきたい。グループディスカッションなどを導入したいが人数と時間の関係上難しいためそれに代わる討論型の授業も導入していきたいと考えている。DPの中の到達度自己評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目に「全くそうでない」と回答した学生が1名いたが、反対の「かなりそうだと思う」と答えた学生が全体の30%いたので、授業評価の基準が学生の中で共有されていない可能性がある。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」という項目に関しても毎回リアクションペーパーで質問を受け付け、次回の授業で応えるようにしているが、「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名おり、まあまあそうだと思うが14名、わりにそうだと思うが18名、かなりそうだと思うが22名いたので、「まあまあ」「わりと」「かなり」の差はなんであるかこの教員と学生の認識の違いについても学生の要望をヒアリングして確認する機会が欲しい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総括的評価としては、高い出席率並びに成績評価がすべてを物語っており、教員として手ごたえを感じている。報告書からは図書館利用が少ないとの報告があるため、今後は図書館の文献を参考にしてレポートを書くような工夫も導入したいと考えている。また、グループで宿泊産業における問題点や地域における宿泊産業の役割などを討論できるような機会を作りさらに深い知識習得に努めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア・デザイン論	3・4	前期	選択	はい	54

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は北九州市総務局女性活躍推進課との連携で行った。受講生の関心度の高さが示すように間近に迫っている就職活動への準備喚起と何よりも学生自身のキャリアデザインの重要性、「働く意味」、「企業とは何か」を理解する点に重点を置いている。福岡県内特に北九州地域の様々な業界で活躍する外部講師によるリレー講義と担当教員によるキャリアデザイン理論で構成した。外部講師は業界の現状、仕事での経験、就職活動のアドバイス（求められる人材）等の内容構成とした。授業での重点は学科特性と受講生の興味等を勘案しての講師手配である。この科目の性格上学習準備性は特に意識していない。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの「到達度自己評価」から「達成された」が妥当と考える。また、毎授業終了時のコメントカード内容からも「ワークライフバランスを考えるきっかけとなった」、「就職活動への選択肢が広がった」など、キャリアデザインに対する認識が広がったと共に職種、業種への理解度が高まったことが伺えるために妥当と考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの受講動機、到達度自己評価(1)(2)から内容的妥当性はあると考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	科目の性格上「授業の進め方」については各講師に一任しているが問題は無いと思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学科特性と受講生の興味という点での講師選択は一定の評価はされてい いと思われる。今後の課題として、インターンシップとの関連性(イン ターンシップ先企業への依頼等)があげられるため、同時履修が望ましい 等シラバス表記の検討も必要である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
インターンシップ	3・4	前期	選択	はい	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学科の「インターンシップ」の最大の特徴は、実習先の選定において学生の希望を最優先させている点である。今年度もこの慣習に従い、初回の授業で学生の希望する実習先を調査し、その後、これら実習先に対し受入れの可否について担当教員が問い合わせるという形をとった。4月～5月にかけて、約150社に問い合わせ、うち約20社から実習の受入れの承諾を頂いた。一般に「インターンシップ」の授業は、就職課が斡旋するプログラムや一般公募型のプログラムが多く、教員はコミットしないことが多いが、本学科の場合は実習先の選定に深くコミットしている。この点が、学生の授業満足度につながっているものと思われる。また受講動機をみても「単位数を確保する」が40.5%とやや目立つものの、「関心のある内容である」が78.6%と最も大きいことから、本授業科目が3年次においていかに重要な科目であるかあらためて認識させられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点(小数点以下切り捨て)で、再試対象者は0人であった。授業履修者に対しては、実習後にレポートを提出するように指導している。レポートには実習によって「どのようなことを学び、知り得たか」について深く考察し、職種や業種について考える機会を与えているが、多くの学生が実習を経験することによってこれらについて深く学んだ旨を記述している。また、DP値も3.6～3.8であることから概ね教育目標は達成されたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性:「インターンシップ」はカリキュラムマップ上、キャリア教育科目に配置されており、キャリアデザイン論等と併せ学生が卒業後の進路を決定する判断材料となる科目であるため、内容的には妥当であると考え。②DPからみた内容的妥当性:今回、知識理解(DP1)の達成度が若干低かったが、これはインターンシップを実施するに当たり学生が習得すべきビジネスマナーなどの教育が若干弱かったことに起因しているが、実習後のレポートなどを総合的に判断すると本科目は内容的には妥当であると考え。③まとめ:以上より本科目の内容的妥当性については問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業については、担当初年度ということもあり試行錯誤しながら進めていった。今年度は実習先と学生のマッチングに膨大な時間を費やしたため、実習に当たっての事前準備（挨拶の仕方、メールの出し方、お礼状の出し方等）がいささかおろそかになりがちだった。この点については学生の自由記述欄の4. 学習量の評価（4）授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由にも如実に表れている。次年度からは学生と事業先のマッチングを工夫することでこれを効率的におこない、事前準備の時間を十分に確保したいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	全体を通して、学生からの授業の評価は4.0を超え概ねよかったと言えるものの、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が設けられていた」という項目は3.8であった。これは先に示した実習に当たっての事前準備がいささかおろそかになりがちだったことに起因すると考えている。したがって、次年度からは事前準備にもう少し時間が割けるように授業の進め方を工夫する予定である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	はい	71

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の土台となる聖書理解が目的である。前期の授業では、旧約聖書の基礎を体験的に習得できるよう、聖書を自ら開き声に出して輪読すること、紙芝居や絵本の読み聞かせ、DVD鑑賞、ディスカッションなどを取り入れた。また、毎週のチャペルの参加や、ミッションデーのレポート、ミッションデー後の教会訪問などを評価に取り入れ、授業外でもキリスト教に触れる体験の機会を促した。 毎回の授業の最後に記入するポートフォリオにおいて、その日の学びの確認を行っている他、チャペルについてもチャペルポートフォリオを作成し、積極的なチャペル参加とメッセージを聞く姿勢を促した。 今後は、さらに建学の精神の土台を日常的に習得していくため、予習・復習の課題を具体的に示していく工夫を行う予定である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.1ポイントであった。事象を理解する視点や考え方取得は3.8ポイント、自分なりの目標達成は3.7ポイントであった。また、他の到達度自己評価も平均3.5であった。トータルの成績の平均値は約75%以上、チャペルの出席率約80%以上、教会訪問の出席率約85%以上とチャペルポートフォリオや教会訪問の感想などから、「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の世界観を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。 キリスト教学(旧約聖書)はキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学(新約聖書)の中で、前期で学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかであるため、キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、総合的に全体として一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 「感恩奉仕」の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての旧約聖書の講義とディスカッションなどのアクティブラーニングの学びの他、チャペル出席、教会出席等を評価に組み入れ、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考える。 自由記述には、「紙芝居などがとてもわかりやすかった」との回答があり、引き続き慣れない聖書の学びへの導入として、多様な教材に触れながら多角的に捉える視点を大切にしたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「チャペルポートフォリオ」を導入して、チャペルと本講義とのリンクを行なった。100%の提出があり、学生のチャペル参加の意欲など、全体像をつかむことが出来た。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要であるため、わかりやすい説明を心がけ、授業の質評価の平均値は4.0ポイントであった。「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.8ポイントであったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるため、学期始めにキリスト教に関心や興味のない学生たちにも主体的に学習してもらうための工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけでなく、学生が興味を抱いたテーマについて取り上げてディスカッションを行うことや、絵本・紙芝居の読み聞かせを学生自らが実践することなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。 授業の最後に記入して振り返りを行うポートフォリオに加え、チャペル出席を促す「チャペルポートフォリオ」を導入し、学生のチャペルへの積極的姿勢を伺う材料とした。これによって、前期のチャペルでの学びの全体像が見えるようになった。今後も、さらなるアクティブラーニングを検討し、キリスト教学の学びを多角的に深められるような指導をしていきたいと考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、<評価基準は明らかであった>の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「19,19,22」で95.2%であった。② 他の2学科との全体授業であったが、「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「11,17,27」で87.3%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるよう、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績で見ると、受講生68人中、91.2%にあたる62名の受講生は標準的レベルに達したが、6名は達せず、その内、2名は提出課題の不充足であり、他の4名は出席不足であった。② 学生の達成自己評価を見ると、<知識><理解>に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「13,24,24」と「11,20,30」でいずれも96.8%であった。レポートには、受講生が積極的に関連する事項を図書館やネットで調べ、順序良く書かれよう指示し、字数を満たしていないものや、内容が十分でないものには再提出を課していることから、内容に関して単位取得の課題を充足しない受講生は、0名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、<知識><理解>ではともに「少し」「全く」の順に、「2.0」で3.2%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための<知識><理解>は否定的回答が3.2%で一桁台であった。③ 以上から、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見としては、レポートの課題が多いこと、課題を途中で変えないこと、課題提出の送信先の表示をより明確にすることがあった。検討し、適切に対応したい。② 授業の質評価を見ると、＜学習の範囲や課題は明らかであった＞という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「16,21,22」で93.7%であった。＜理解しやすい＞という項目では、「11,20,27」で92.1%であった。＜学生の質問への答を得る機会＞では肯定的回答は「11,17,27」で87.3%であった。＜参加の機会＞では肯定的回答が「10,20,26」と88.9%であった。④ 今後のことであるが、この学生の授業評価を参考に、1)今後も理解向上のために、レジメ等による説明の工夫、2)理解の共有化を図る工夫、3)3学科全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、グローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南女学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にすることが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南女学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での＜的確に判断する力＞及び＜その学びを深めたいと意欲をもつ＞ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、改善に取り組む工夫をする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナー I	1	前期	必修	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学科共通シラバスで全専任教員が担当する科目であるため、まずはこの科目のあり方について学科会議で検討をした。そこで出てきた意見として、昨年度のテキストは使いにくいということであった。そこで新たなテキストを選定し、授業の改善を目指した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の自由記述ではディベート大会の取り組みについてが圧倒的に多く、それ以外の共通テキストを通しての授業についてはコメントが少ない。教員の意見を聞いても、新たに採用したテキストが不評であった。昨年度の反省を踏まえて選定したテキストであったが、期待が外れたということであり、次年度については再考の必要がある。一方で、ディベートについては学生は高く評価しているようであり、このまま継続したいと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	シラバスはDP、CP、カリキュラムマップを意識して作成し、授業に臨んだが、学生の受け止め方は、ディベートに重きを置いていたようである。結果的に学生の学習が授業の一部に偏る形となってしまったようであり、科目の位置づけは適切でなかったと言える。来年度に向けて再考の必要を感じる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生の自由記述を読みますと、「学習の評価」において、「何をしたいのか分からなかった」というコメントが目立っていた。全学共通の1回目の授業、共通テキストを使った授業、ディベートというように、3つのパターンを含んでいる授業であるため、学生たちは科目そのものの目標が理解しにくかったのかもしれない。目標を理解していれば、学習のポイントも分かるはずであり、今後は早い段階で科目そのものの目標について学科教員共通で学生に説明できるように工夫をしたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	この科目が開講されて、今回で2回目となるが、まだまだ手探り状態のようであり、改善の余地が大きく残されているというのが実感である。特に、テキストの選定とその活用については学科会議で検討をして次年度につなげていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の基礎知識の理解と把握に重点を置いた。 受講の理由は必修科目であるためが98.5%、関心がある者が僅か7.7%であった。健康や生理学が基本となる学部で関心の程度が低いことは残念だ。 健康に関する情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。また、授業計画では教科書等の予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませよう促した。出欠アンケートで、まとめと質問を設け、学生の理解度を高めた。その結果、授業で内容を理解しようという姿勢が全授業を繰り返すに従って向上した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は2名であった。 全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは25名(77%)であった。 目標達成できたと答えた総数は63人中67名で高値を示した。 「知識が獲得できたと思う」は67人、「事象理解の視点を得た」と思う者は64名、「課題検討力」を得た者59名、「判断力を得た」57名、「学習意欲が得られた」60名、「必要技能を得た」49名、「表現力を向上できた」45名、「倫理規範獲得」55名、「職業選択の参考」44名と非常に高い自己評価を持っている。 欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。 自由記述では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性について 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めたことから、内容的には栄養系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性について 成績評価から、内容的妥当性は十分あったと思われる。興味が高まれば、もう少し深く進める事も出来ると考える。 ③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、観光文化学科の学生に妥当な内容と考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、予習を全くしなかった者が28名(67名中)と授業要点のまとめと自己調べの課題が理解できていない学生がまだいることが考える。 毎授業の復習、興味関心調べをA4用紙にまとめ提出してもらったことがこのような結果に結びついたと考える。 シラバスを参考にしなかった者が17名(67名中)、授業計画を立てなかった者35名であったが、図書館、データベース、インターネットのいずれかの利用者は40名と多数であった。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。 授業過程を振り返ってみたとき、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 授業評価から、学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科					
氏名					
	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
	1	前期	選択	はい	19
2. 観点・DP上の位置					
	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
該当に○	○	×	×	×	○
授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など					
	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できる ように務めた。 ②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、 ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 ③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 ④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動 能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ⑤チースポーツでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが口固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの口入れ替えを行い、				
	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)
	達成された	達成された			やや達成された

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人文学入門	1	前期	必修	はい	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学部共通の科目であるため、昨年度の反省を踏まえて、事前に担当者間で内容の検討を行った。各教員の授業が全体としてつながるように工夫をした。特に人文系の学生を強く意識したもので、人文学部両学科の学生が興味を持てるようなものとした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の「優」以上の比率が極めて高く、授業の成果が上がっているようである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	数名の学生は、毎回講師が変わるために、この科目がよく分らないとコメントしている。教員としては、位置づけは妥当だと考えているはずであるが、それを学生が理解していないようである。まず最初に全体の流れについて学生に詳細に説明をする必要があると思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	「学習量の評価」について、多くの学生が何をして良いのか分からないと答えていた。上記5で記載したことも深い関係があるが、科目全体のことについて学生の 理解を深めるようにすることで科目の目標を理解させて教育効果を上げたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	最終的には、この科目の教育効果は上がっていると思われる。しなしながら、一方でリレー講座の短所(全体としての理解が困難)を克服するようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨年度あったグループワークに関して、グループに一つの評価点を与える形が評価の公平性に不満が出ていた点を鑑み、事後テストの形での理解確認を図った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度評価の平均値、中央値から、やや達成されたとみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全学対象の教養科目という位置づけであり、カリキュラム上の他の科目との関連性はあまり高くない。そういった経緯もあり、学生の受講目的も大半は単位数確保であり、評価は難しいところではあるが、内容的にはシラバス通りに進められ、達成度評価からも一定程度知識理解を進められたと考えている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業資料をPowerPointファイルの形で配布しており、またシラバス上でも復習方法を書いていたため、自由記述で復習の方法がわからないため復習しなかったという学生が相当数いたのは予想外だった。授業の中でも指示するようにする必要がありそうだ。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	昨年度と比較すると、グループではなく個人に課題を課したことで評価の公平性に関する疑問が出なくなった点はよかったと考えている。全体的に、そもそも内容理解のモチベーションが高くない状況で履修するケースが多いため、より興味を持ってもらいやすくなるよう配慮したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	松田 憲

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
こころと人間	2	前期	選択	はい	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生は単位目的と内容に関心を持つものが半々であった。心理学に関心を持ってもらうためにも、心理学における各領域を説明するにあたって、人間関係や恋愛、消費行動といった身近な例をできるだけ多く挙げることを心掛けた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回の授業で、講義内容の理解を問う小レポート課題を課したが、多くの受講生がしっかりと理解できていたことがうかがえる。とはいえ、学期末のテストの成績は出来ている学生と出来ていない学生と大きく差が開く結果となった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義の理解はおおむね達成できたのではないかと感じる。しかし、到達度を問うテストの結果は芳しくなかった。出来ている学生とそうでない学生との差が大きく分かれている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今年度より、次週の内容の予告を行うことで予習を促したが、半数程度の学生が予習を行ったようである。復習についても、講義中にその重要性を示したことから、 実際に行った学生は一定数いたようである。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度は昨年度と比べて多くの受講生が聴講したが、その分昨年度は見られなかった講義中の私語や途中退室が散見された。こういった行為については来年度は 厳しく接したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	51

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は中国語の基礎知識を学習するものである。初心者にとって外国語は難しい、とくに発音の難しい中国語は、挫折しやすい。授業の実施にあたり大切にしていたことは学習者により学習習慣を身に付けさせ、楽しく学ばせることである。今回の受講動機をみると「関心のある内容である」が79.5%であり、よいスタートであったと感じた。授業ではちょっとハードな発音練習のあと、中国の文化や風習、考え方、最新事情なども紹介したりして、学習者のモチベーションを高め、さらに関心を引き付けるようにしている。 ②開講時に4段階の学習目標や、学習方法を明示し、「学習状況記録表」を作り、学習者に配布し、学習効果を常に確認できるようにした。 ③各課に漢字テスト、暗記テスト、コミュニケーションを行い、学習者に「わかった、できた、つながった」の学習喜びを感じさせ、間違ったところをしっかりと復習しようという意識を高めるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績標準的なレベルに達し、理想的レベルまであと少しであった。 学生による到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.3で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は4.0であった。2つの項目に差があったということは知識は概ね理解しているが、表現することはまだ難しいと考える。コミュニケーション力や表現力をより効果的にアップさせる方法についてさらに検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目であるが、観光文化学科の「専門教育科目 ― 中国語通訳ガイド演習や観光中国語など」の基礎となる重要な位置にある。この段階で学生により学習習慣を付けさせ、中国語の基礎知識をしっかりと把握させ、分かる、できる、通じるという喜びを感じさせ、中国語大好き人間にさせることが最も重要だと考えて授業を進めた。学生も優秀な成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容の妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目の平均値は4.2であり、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の2項目の中央値が共に4.0であることからみて、内容的には妥当であったと考える。 ③自由記述の意見 自由記述から、「発音や文法の説明が分かりやすかったです」などがあった。これらの記述からみて、説明方法は妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学習者の学習状況を常に確認し、無理のないように授業を進めていた。 学生たちは授業の課題以外に以下の学習を実際に取り組んだ。①中国語検定試験の勉強、②アプリなどで調べた、③中国語に関する本を読んだ、④中国語について色々調べたりした、⑤漢字練習、⑥暗記、⑦復習、⑧小テストの勉強など。熱心に取り組んでいると思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「総合人間科学」の一科目として、それから「専門教育科目ー中国語通訳ガイド演習及び観光中国語」を受講するに必要な予備知識としての本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。 来年度に向けての課題は、来年度の学習者の心理や好みをできるだけ多く把握し、学習者に合った教授法を研究することである。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。また受講動機において、70%以上の学生が「関心のある内容である」との回答をしていることからわかるように、もともとK-POPや韓流ドラマなどの影響を受けている学生が多く、できるだけK-POPアーティストや韓流ドラマ俳優などが使うフレーズや言葉なども文法学習で取り入れながら、学生が韓国カルチャー情報を見る際に実際役立つような授業も心がけながら、学生の自発的な韓国語学習を促すことに重点を置いて取り組んだ。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期的に行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出してテスト後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。到達度自己評価においては、多くの項目において平均値・中央値が3.5以上であり、教育目標はやや達成されたと思われるが、多くの学生が韓国文化やカルチャーには大変興味をもっているものの、語学の学習には苦労した学生が多かったように思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないと思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進捗は小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいて いる受講者がいれば個人的に指導にあたったりもした。最終テストでは 全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な 語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニ ケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
フランス語入門	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	志望動機は全体の70%が「関心のある内容である」と回答したことから、未知の語学であるフランス語に対する興味・関心・期待の高さが伺えた。この授業では、興味関心を持続させられるような、フランスの歴史や文化にかかわる映像を毎回視聴するよう準備した。テキストは「主体的に学びながら力をつける」ことを念頭に置いたものを新規採用し、ペアワークによってフランス語を知的に理解することを重視した。受講者数が外国語の授業としては比較的多い43人(英語学科と合わせて)で、各課の終わりに個別に指導する時間を確保できるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は69.7点(±47点)であり、2名を除いた者が標準的レベルに達した。S評価とA評価は15名中で各1名、B評価は5名だった。学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「かなりそうだと思う」「わりにそうだと思う」と答えた割合は、DP1「知識・理解」に関しては81%だった。このことから学生の目標は「達成された」と思われる。またDP5「技能・表現」は86%という結果で、これも高い割合で技能や表現力を身に着けることができたと考えていることから「達成された」と判断する。DP1、DP5ともに「そうでないと思う」という回答は無かった。学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったのは90%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業の質評価において、どの項目も評価は平均的であった(平均値は3.8から4.1)。自由記述には「授業内容を復習した」「小テスト(で知識を定着させた)」「インターネット(を利用した)」であった。この授業は、内容的に妥当性があったものと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業では毎回、ニュース映像や歴史文化に関する映像を視聴して感想を提出させたり、会話やコミュニケーションをとる時間を多く設けたりすることができた。また、課題となる練習問題を提出させることで個別指導ができた。一方、授業の課題以外に学習に取り組んだと回答したのは36%だった。今後は、授業で学んだことに満足せず、教室外でも興味関心を持ってフランス語に接することができるよう、図書館やインターネットの利用を促したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	まずは自ら考えて問題解決するという授業を行った結果、各自の主体性、課題達成に向けて助け合う力、自分のことを表現する力をある程度身に着けることができた半期間だった。その一方で、学外でもフランス語やフランスの文化により親しみ、学びたいという意欲を高め、ツールとして使えることを体感できるよう、語学の魅力を伝えていかなければならないと感じている。今後もフランス語と「遠い言語」としない学習方法を模索していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。 特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。 初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものと考えている。 講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝えるようにして、講義以外 の時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	阪井 俊文

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ライフイベントとキャリア支援	2	前期	選択	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度から新たに開講される科目であるため、手探りで講義の内容を準備した。受講動機を見ると「単位数を確保する」だけでなく「関心のある内容である」とする学生も半数を超えており、ある程度、学生のニーズに合った内容を準備できたと考えられる。準備に際しては、類似する科目と内容が重複しないように心がけ、必修科目である「キャリア開発」を補完するような内容となるよう考慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケートの結果で、「自分なりの目標を達成した」や「職業選択の参考になった」の項目において半数以上が4または5としていることから、学生にそれなりの意義がある内容だったと受け取ってもらえたようだ。ただし、学習量や図書館利用などの項目に関しては全体的に評価が低くなっており、学生の自主的な学びを引き出すまでには至らなかった。単位数の確保という目的で履修した学生が多く、専攻する学問に直結する内容の科目でもないためやむを得ない面もあるが、もう少し、主体性を促す努力をするべきだったかもしれない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「キャリア形成支援」というカテゴリに含まれる数少ない科目のひとつなので、単位数の取得を目的とした履修が多くなることはやむを得ないであろう。到達度自己評価の(4)から(7)の専門分野への寄与に関する項目についても、科目の性質上、評定が低いことは当然である。(1)(2)(10)の評定が悪くないことから、妥当な内容の講義を提供できたと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	自由記述の意見から、少人数での演習形式の授業をイメージして履修した学生が一定数いたことが伺える。初めて開講される科目であったので、履修者数の見当 がつかないまま講義が始まったが、蓋を開けてみれば履修者は100人を超えていた。また、履修者の多さに加えて、8回という限られた講義回数の科目でもあるた め、学生と相互作用を取り入れた形式にするのは難しかった。次年度以降は、履修者数にもよるが、学生と議論できるような進め方を検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度は開講初年であったが、一定の評価得ることはできた。次年度以降は、キャリア支援という本科目の目的を踏まえ、学生がどのようなニーズを持っているの かをくみ取りながら、より充実した内容を考えたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光学入門	1	前期	必修	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は観光学の基礎となる理論について事例に触れながら学ぶことを目的とした。1年次配当の必修科目であり、1年生を中心とした履修者をもう一人の教員と二分し(計2クラス)、当方はそのうちの1クラスを担当した。受講生の興味関心を喚起するよう心掛けたが、具体的には以下の工夫をした。 ①学際分野である観光学の基礎的な理論を紹介したが、これについては地理学、社会学、経済学、経営学、哲学、歴史学など諸分野から取り上げ、様々な観点から観光を考える基盤作りを行なった。 ②レジュメについては図表を多用するなど、活字のみならず、視覚に訴える構成ともなるようにした。 ③期末試験は行わず、それに代えて、3回に渡ってレポートを課した。内容は観光にかかる諸現象についてであり、調べたものを(参考文献を明示し)まとめるだけでなく、そこから考えられることを盛り込んでもらう形とし、大学生として、まずは調べ、考える作業を行なってもらった。レポートの評価については、「秀」10名、「優」15名、「良」3名、「可」2名、「不可」1名(未提出による)となった(定期試験受験不適格者2名と退学者1名を除く)。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は34名であり、昨年同時期の33名から1名増となった。学年は2年生が1名のほかはすべて1年生であった。今期の当授業の特徴としては、1年生メインであったこともあり、観光学(学術として取り上げる観光の諸現象)を理解してもらうのに時間を要さなければならなかった点である。 授業評価アンケート(回答者30名。以下、特記のない限り同数)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは5名、CiNiiなど学術データベースを使用したのは4名であった。インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は9名という結果となった。 出席状況については、皆勤が18名と58%を占める(定期試験受験不適格者と退学者を除く)など、概ね良好であった。1年生メインであり、特段の事情がない限り、出席してくれた。 当科目の単位自体は定期試験受験不適格者と退学者を除き、31名中30名に付与することができた。その内訳は「秀」13名、「優」13名、「良」2名、「可」2名であった。成績を授与した31名中26名(84%)が「秀」もしくは「優」となり、総じて高い評価となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート(回答者28名)によると、「受講動機」は「必修科目である」が27名で選択率96%となった。次いで「関心のある内容である」が3名で同11%であった。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.2から3.6の間の評価であった(5点満点)。最高である3.6は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」であった。この中央値は4(「わりにそうだと思う」)であり、知識面ではしっかりと身に付けてくれたことが窺える。平均値が3.2であったのは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた、「職業選択の参考になった」の3項目であった。後者の2項目については、本科目では学術に特化しており、あまり職業について触れなかったためやむをえない。前者については、授業担当者からすれば、それなりの頻度で学生の意見を聞く機会を設けたという認識であったが、3.2という3(「まあまあそうだと思う」)に近い数値となった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートによると、予習時間は最も多かったのが0の16名、次いで、30分～1時間の6名、1時間半～3時間の4名、30分～1時間の4名、5時間半以上の3 名という順であった。復習時間も最も多かったのは0の14名であった。次いで、1時間半～3時間と30分～1時間の各7名、5時間半以上の2名という順となった。 ノートテイクはした者が21名、しなかった者は7名であった。予習復習はともかく、授業時間については大切にしていたかどうか端的にわかるノートテイクであるが、成 績の「秀」「優」は26名、「良」「可」「不可」は5名であり、相関関係がありそうである。 授業アンケートの自由記述では、「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として「何をすればよいかわからなかった」という回答が多かったが、まず授業 の課題・予習復習に取り組んでいただければ考える。「担当教員への意見」には「ありがとうございました」、「ありがとうございます」とあり、良かったと考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ここでは総括として授業評価アンケートにおける「授業の質評価」を見てみよう。5項目あるが、先の「到達度自己評価」よりもさらに点数は上がり、すべて3.3から3.7 の間であった(5点満点)。3.7は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」と「期間内に行なうべき学習の範囲や課題は明らかであった」の2項目 であった。3.3は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」である。3.3の項目は授業担当者としてはこのよう な機会をしっかりと設けた認識であったが、さらに時間を取るよう努めたい。しかしながら、総合すれば、1年生の前期ということで、総じて「やる気」が確認された。その 結果、知識面を中心として、良く定着させてくれたのではないかと考える。今後とも1年生のうちからしっかりと教養を身に付けてもらえるよう、さらなる努力をして いきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光学入門	1	前期	必修	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「必修科目である」91.2%、「関心のある内容である」20.6%、「単位数を確保する」20.6%となっております。学生の関心を引き出し、多くの学生が勉強したい科目になるように、シラバスの作成や授業の準備に工夫する必要があると思う。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目に小テスト(レポート提出)を行い、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86.8点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては94.6%、態度に関しては97.3%、技能表現に関する問題は97.3%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、態度、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、18.9%、43.2%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、態度、技能表現に関する達成度が理想のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「観光学入門」であるが、「観光系の授業の基礎」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「説明は理解しやすいものであった」94.6%、「評価基準は明らかであった」100%、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均が100%となっております。次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「観光系の授業の基礎」をつなぐ要の位置にある「観光学入門」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、態度、技能表現を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国内旅行実務	1	前期	選択	いいえ	64

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・この講座は、「旅行業務取扱管理者試験対策講座」であることから、試験合格基準の60%以上の点数取得を目指した。国内運賃・料金は、JRの運賃・料金であり、JRの規則を記憶しているかどうかにかかっており、理解の深度の確認のため、練習問題、及び小テストを実施した。結果、理解が深まっている部分と、まだ理解が出来ていない部分がはっきりして、解説を行うことで理解できるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・受講動機に半数の学生が単位数の確保を上げていた。しっかりと国家試験合格を目指す学生との温度差は大きいものがある。しかし、必ず解ける問題であることが実感できてくると、今度は解けるという自信につながり、高い自己評価(平均値3.2)につながったと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・国家試験対策講座ではあるが、広く一般社会において活用範囲が広く、旅行会社以外でも観光関連の就職先においては知っておくべき知識であることから本講座の意義は大きい。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・国家試験合格に重点を置いた。特に出題頻度の高い項目は解説の時間を多く取り理解が深まるように解説を行った。学生から「説明が丁寧でわかりやすかった」、との感想を貰ったことは、大変喜ばしい事です。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・毎年の合格者が二桁台になるよう受講生の数の調整が必要ではないかと思われる。クラス数は多くなるが30名程度のクラス分けを行うと、各学生一人ひとりの理解度が把握しやすくなり次の対策が取りやすく、合格者が増えることが期待できる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	宮原 英利

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
観光関連法規	1	前期	選択	いいえ	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・当講座は、国家試験対策であること。学習する量が多いこと、反復・継続が重要であることを最初に理解させた。受験学習は、事前に条文を読み込むことが大切であり、理解度確認のため、小テストをその都度実施した。資格取得を目指す学生が大半であることからモチベーションを落とさないよう事後学習に過去問を反復して行うよう指導した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・国家試験に向け努力する学生が多く、出席率100%が全体の75%もありその努力がうかがえる。ただし、中々思うような点数に結びつかない学生も散見され、受講学生が多くなると個々人に対し細かい指導には限界がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・国家試験対策講座としての位置づけであるが、この講座の内容は旅行業界のみならず、観光業界全般で役立つ必要事項と思われることから、大変有意義である。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・入学直後の1年生にとっては難解な法律用語を勉強することになり、また旅行業の経験も無いことから、授業を進めるにあたり実際の事例をあげて理解度を増すように心がけた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	・国家資格を目指す学生とそうでない学生が混在する中、授業の質評価では高い数値となっており、受験しないながらも興味を持っていたと思われ、今後必要な知識、教養になると理解したと認識する。課題としては、大人数になると各人の理解度を授業しながらの確認が大変難しい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
海外旅行実務	2	前期	選択	はい	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	最初の授業時に、国内旅行管理者試験の取得状況を確認したところ、ほとんど所持していないことが判明したため、そこからの復習を取り入れるようにした。そのおかげで、学生のレベルにあった授業でよく理解しているようだった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「秀」を獲得した学生が21名もいた。難易度の高い問題であるにもかかわらず、これだけ高得点者が多いことは授業中での説明が適切だったと思われる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	国内旅行実務の資格を持っていることを前提とした授業であり、その前提が難しいために、再考の必要がある。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	視覚教材についての評価が高かった。やはり、目からの情報が良かったと思われる。今後もうまく活用したいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	何よりも学生の成績が高得点が多かったことが良かった。今後は資格取得にどうつなげるかを検討したいと思う。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高橋 幸夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マーケティング入門	2	前期	必修	はい	65

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	マーケティングは、実際の企業経営の中心課題であるであるが、昨年度より本学科のカリキュラムには「企業とはなにか」「企業経営とは何か」「経営入門」等のマーケティング以前の基本カリキュラムが設置された。その為、その学習成果に加え、学生の興味喚起のために観光・旅行系などの企業経営、北九州市などの自治体など団体組織におけるマーケティングの役割の理解に重点をおいている。また、マーケティング興味・理解を促進するため関連するコマーシャル、ビジュアル等をPPTに多用している。学習準備性については、上述のように企業組織・経営の基礎理論を学んだ学生にマーケティングへの興味・理解をステップアップさせるために新聞・テレビなどの経済経営記事に慣れ親しむ事を学習準備として示している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業はあくまでマーケティングという学問への興味を促進することが大きな目的としているので、映像情報、ビジュアル情報など多用し、興味から学習意欲の向上を促した。アンケート結果からは、到達度自己評価においてはほぼ達成したが、情報利用、学習量などの少なさが目立つ。今後はこの点の改善を図る。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機、学習到達度の自己評価、自由記述の意見より本科目自体の内容的妥当性はあると評価できる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	アンケート結果や自由記述内容により授業の進め方については問題ないと考えているが、改善点としてはより以上のディスカッション機会を取り入れ、コミュニケーション力、表現力向上等も検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	科目目標はやや達成されたと思われるが、学習量が受講生に多くいるため課題、レポートなど工夫したい(レポート課題提出1回実施)。ただし、新カリキュラム編成となった2018年度以降については経営学の基礎科目(経営学入門)が導入されたので、それ以降(2019年度)に本格的に学習量の向上を図るために導入を試みたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	高野 雄史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ビジネスと法	2	前期	選択	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	法は社会規範であるので、現実社会の具体的問題に学生の興味関心が持つこと。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行うミニッツペーパーでは、各講義のテーマに沿って、学生自身の社会的経験や興味の観点から質問や感想が記述されていた。また、定期テストでは、現代社会と法の重要論点について、全体的に理解を示す解答がなされていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当であると考えます。なぜなら、どのような学問を修得する上でも、社会規範や社会との関連を認識する必要があると考えるからです。つまり、社会常識に裏付けられた行動がとれる人材を育成することが大学教育の目的と考えるからです。「学習到達度自己評価」からも、その目的を達成できていると読み取れます。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	講義において、学生にとって分かりにくいテーマが含まれていたと思います。具体例を多くしてより分かりやすい説明を心がけ、授業内容を改善したいです。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	法を学ぶことは社会のルールを学ぶことです。社会のルールを知ることは、社会人としての第一歩です。今年度は「法の役割と重要性」を十分に理解してくれたと思います。また、出席状況が気になる学生もいました。様々な事情があると思いますが、できる限り講義に出席して勉強を楽しんでください。そして、来年度は、みなさんにより楽しんで学んでもらえるように改善を図っていききたいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本経済入門	1	前期	選択	いいえ	61

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の受講動機では「関心のある内容である」という選択率が66.7%と最も高いものの、「単位数を確保する」という選択率も44.4%とやや高い。たしかに本科目は本学科において1年次に配当されている経済系科目であるが、広く観光や地域活性化を学ぶ学科のカリキュラムの構成上はその中心となる科目ではない。しかし、幅広い教養を身に付けるという意味や将来の就職活動を視野に入れた場合、必要不可欠な科目と考えられる。そこで、本授業においては経済の基本的な仕組みから詳しくかつ分かりやすく説明をおこなった。具体的には毎回レジュメを作成し、必要箇所の穴埋めをさせていきながら丁寧な授業を心掛けた。また、経済学の知識は一長一短には身につかないことから、小テストも繰り返し実施した。その結果が4. 学習量の評価(4)授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習に表れている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP項目の平均値は3.6～4.1をマークしており、全体を通しての教育目標は概ね達成されたと考えられる。但し、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目が3.6と最も低いため、この点は検討課題となる。経済系科目は知識を習得し、経済学特有の考え方を理解することが肝要であるが、前述した観点も一部取り入れながら授業の展開をおこなっていくことも考えなければならない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	経済系の科目は学科の中心的科目とはなり得ないものの、就職活動等に備え基礎的事項を理解しておく必要がある。この点、CPの観点において内容的妥当性はあると考える。また、本科目は知識の習得と理解を求められる性質を有することから、思考・判断といったDPを特に求められると考える。この点に関しては授業に対して学生からは、4. 学習量の評価において小テストの学習を挙げた学生が多かったことから内容的妥当性は概ねあったとみている。以上より内容的妥当性については問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	「授業の質評価」項目のうち、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、 学生が参加する機会が作られていた」という項目を除いてはすべて4.0以上 となっていることから概ね学生の満足度は高いと思われるが、次年度からは 授業中にもう少し発言の機会を与える工夫をしたいと考えている。また、 経済学の授業はとすれば難解な理論の説明になりがちであることから、 できるだけ平易に説明していくことをさらに心掛けたいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	経済学の基礎知識を学ぶ1年生向けに毎回レジュメを作成し、できるだけ 平易に授業をおこなってきたが、今後も授業の質を高めていきたいと考 えている。具体的には授業中に発言の機会を与える、グループ学習を取り 入れるなどを行っていくつもりである。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2	前期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次に配当されている経済系科目であるが、1年次に配当されている日本経済入門の発展的内容という位置づけがされている。したがって、1年次に学習した日本経済入門の基礎知識の反復確認をしながら授業を実施した。具体的には毎回レジュメを作成、配付し、小テストも全部で10回ほどおこなうなど知識と理解の定着を図った。ただし、学生の受講動機としては単位数を確保するという選択率が最も高く54.3%を占めていること、また授業内容が日本経済入門に比べてより高度となっていることから、学生の自由記述については「授業が楽しかった」といった意見が散見されるにとどまった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の平均値が3.9～4.1をマークしており、概ね達成されたと考えられる。ただし、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」、「職業選択の参考になった」などの項目はそれぞれ3.9という平均値となっているため、意欲関心といった点については他の項目に比べて達成度が若干劣ると言わざるを得ない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	前述したようにDPの平均値は3.9～4.1をマークしており、内容的妥当性については問題がないと思われる。また、CPについても当該科目は経済系科目の発展的内容という位置づけがなされており内容的妥当性があると考ええる。以上より、内容的妥当性については問題がないと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本科目は経済系科目の中でも発展的内容を取り扱ったものであるにもか かかわらず、授業の質の評価に関してはすべての項目で4.1～4.2をマ ークしていることから一定の授業成果があったものと考えている。た だし、本科目に関して図書館等の利用をしなかった学生が多く、こ の点は次年度以降の課題と考えている。具体的には随時課題を与え、 学生が図書館を積極的に利用するような授業の工夫をしたいと考 えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は経済系科目の発展的内容を扱ったものであり、2年次生には やや難しい内容であったかもしれないが、わかりやすくかつ丁寧な 授業を心掛けたため、授業の質の評価に関しては4.1以上の平均値と なった。しかし、次年度以降はもう少し図書館を利用し、またグル ープ発表などを通じてコミュニケーション力を高めることのでき るような工夫も行っていきたいと考えている。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
観光フィールドワーク	2	前期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は全15講のうち、まず前半に観光研究にかかるフィールドワークの意義と役割を座学で学ぶ。中盤から後半にかけては、極力受講生の意を汲んだ研究テーマと一緒に決め、そのテーマに沿ってフィールドワークを準備、催行する。さらに、データの分析を行なってもらい、まとめたものを発表してもらった。授業にあたって工夫したのは以下の3点である。 ①単に野外に出るのではなく、しっかりとフィールドワークの狙いを押さえてから、1-3名で1組のチームを作り、入念な準備のもとに催行してもらった。フィールドワークを終えた後も、データ分析に注力してもらい、問い立てと合致した結論になっているか検討した。各チーム3回(立案、進捗報告、結論)ずつ発表してもらった。 ②成績のメインとなったのはもちろんフィールドワークにかかる一連の取り組みである。 ③観光にかかるフィールドワークについて最終講に気付いたことや新たな発想・発案を各自でレポートにまとめてもらった。上記②と合わせた評価(平常点での評価20%分を除いた全評価の80%)については、「秀」2名、「優」2名、「良」1名、「可」4名、「不可」3名であった(定期試験受験不適格者2名を除く)。チームでの取り組みがメインであったが、このようにしっかりと取り組んでくれたチームとそうでなかったチームとで評価が分かれることとなった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は15名であり、昨年同時期の3名から5倍増となった(但し、昨年は2限が2年生以上の参加は任意となっている宗教の時間である曜日の1限。今期は3限であった)。学年は全員が2年生であった。今期の当授業の特徴としては、和気藹々とした雰囲気であったことが挙げられる。授業評価アンケート(回答者11名。以下同)によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは4名、CiNiiなど学術データベースを使用したのは3名であった。インターネットを使用し、(一般的なサイトにより)検索などを行なった者は5名という結果となった。上述のように、熱心なチームとそうでないチームで分かれてしまった結果と言える。 出席状況については、皆勤が1名、1回欠席が6名と、1回欠席までで受講者全体の半数に迫るが、自身のチームの発表回も含めて4回欠席1回遅刻といった学生もいた。 当科目の単位自体は定期試験受験不適格者を除き、13名中11名に付与することができた。一方、その内訳は「秀」0名、「優」1名、「良」5名、「可」5名であった。上位層の比率が低い結果となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケートによると、「受講動機」は「単位数を確保する」が8名で選択率73%、次いで「関心のある内容である」が6名で同55%であった。「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.7から4.1の間の評価であった(5点満点)。最高である4.1は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」であった。3.7であったのは「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」であった。上述したように、担当者からの視点では全体的に本科目の内容をよく身に付けてもらったのか心配するところであるが、受講生は総じて満足度が高かった(中央値はすべて4「わりにそうだと思う」であった)。同じく上述したように授業の雰囲気の良さがこうした満足度を高めたのかもしれない。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートによると、予習時間は最も多かったのが1時間半～3時間の5名、次いで30分～1時間が3名であった。復習時間は最も多かったのが1時間半～3時間の各4名、30分～1時間は3名であった。少なくとも予習は多くの者が行なってくれており、これはこれでよかったと考える。なお、ノートテイクは9名とほぼ全員が行なってくれたが、授業の課題以外の学習に取り組んだ者は3名であった。授業で精一杯だったのではないだろうか。 授業アンケートの自由記述には特筆すべきことはなかった。上記の5でも示したが、担当者からの視点では全体的に本科目の内容をよく身に付けてもらったのか心配するところであるが、受講生は総じて満足度が高かったと言える。和気藹々とした雰囲気であったため、実際以上に勉強した気になったのかもしれない。しかし、雰囲気だけでなく、実際にしっかり教養を積んでもらえるよう、これからも頑張りたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ここでは総括として授業評価アンケートにおける「授業の質評価」を見てみよう。5項目あるが、先の「到達度自己評価」よりもさらに点数は上がり、すべて3.9から4.1の間であった(5点満点)。4.1は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、3.9は「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」である。このようにすべて「中の上／上／下」「わりにそうだと思う」の評価であった。雰囲気が良く、和気藹々とした中で行なわれた党授業であり、学生の満足度も相対的に高い結果となったが、担当者としては雰囲気も大事だが、実際にしっかり教養を身に付けてもらうことも大事だと考える。学生だけでなく、担当者もそう手応えを感じるようにこれからも鋭意努力していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	必修	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を高い順に示すと、①必修科目である(96%)、③関心のある内容である(12%)、②資格取得に必要である、④単位数を確保する、⑤GPAをあげるが、それぞれ4%である。③が12%あることは望ましいことである。学生を二グループに分け語彙調べをさせて、それを印刷して前の週に配布した。当日の授業ではその英語の部分を読ませるということを授業最初にした。語彙調べの提出率は8割強であり、非常に意欲的な取り組みの姿勢が見受けられた。 次は昨年度も有効であり、本年度も行ったところである。①授業外の活動として英語の多読活動・E-learning も評価に入れることをシラバスに示していた。これらの活動については、二回の説明を行なった。1回目は入学式後のオリエンテーション期間中に、多読は1学年を一括して、E-learningは学年を二つに分けて、やはりオリエンテーション期間中に説明会を開催した。1回目の授業(＝オリエンテーション)では「追加シラバス」を配布して、詳細に説明した。多読のウィークリーレポートは9週分以上を提出することを求めた。これについては一回目の授業で一週間分の印刷物を配布して、二週間以降の分はメールで添付で送った書式を自分で印刷して使うように伝えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生30名の成績は、A14名、B12名、C2名、D2名である。本試験時の平均点は86.5点となり、かなりの高得点となった。到達度自己評価では、到達度自己評価の「(1)自分なりの目標を達成した」から「(10)職業選択の参考になった」までの10項目の平均は3.76である。 到達度自己評価の「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は、③まあまあそうだと思うから、⑤かなりそう思うまでが、回答者30名中の29名である。特に⑤が7名である。また「③事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」では、③まあまあそうだと思うから、⑤かなりそう思うまでも29名である。これにより知識・理解は達成できたと考える。到達度自己評価では、10項目全てにおいて、②少しそうでないと思うが、延べ8名であり、他は全て肯定的な回答であり、全体を通して「達成された」と考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性 ①1年生の前期の英語の必修科目である。英語の好きではない学生がいる中で、課題の提出率も高く、CHLeruの学習マイル達成率も、9割強ある。内容的には妥当であると考え。学生の関心を刺激して、自主的な学びの姿勢を更に強化できるように、多くの学生にも参加できる部分を多く提供する授業としている。これを受けるものとして、後期の「応用英語」が設けられており、カリキュラムマップ上のこの配置は妥当である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の自己評価の「学生の意見」には、4. 学習量の評価(4)授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「課題で十分だった」「単語調べや予習でたくさんだったから」とある。確かに入学直後の学期に大学の授業に慣れる必要がある時期には、負担の大きな授業だったかもしれない。昨年度からの改善策としては、英語の多読については、部分点を出している。 ②授業アンケートの3. 授業の質評価では、5項目の平均は、4.06である。(5)口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていたが、「③まあまあそうだと思う」から「⑤かなりそう思う」までを全員が選んでいる。非常に時間がかかる取り組みではあるが、学生に考えさせて書かせたレポートを再提出、再々提出までさせて、仕上げさせていく多読活動については、学生も大変だろうが、有意義であると考え。「(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」は、「⑤かなりそうだと思う」が14名であり、授業の進め方については理解を得られたのではないかと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①一般的には読書量が決定的に不足している学生が非常に多い。この場合の読書量とは英語ではなく、日本語についてである。大学入学までは教科書以外の英語の本については、まずは読書経験がないとの前提で、英語の多読活動を始めさせている。まず最初にここで行うことは、自分で英語の本を選んで、読むことへの不安感を消すことであり、自信をつけさせることである。DPは(1)知識・理解であるが、最終的には授業外の時間でも自主的に学習することで、このDPを充足させることにつながる。 ②ここ数年の新生入生については、PCについてのリタラシーが一気に低下してきている。PCではなくスマホ利用が主流になってきた影響である。この科目は語学であり、E-learningも取り入れている。400以上の学習マイルを得ることを条件としているが、どのようにして学生が400マイルを確保しているのかが、見えない。ここを次年度は見えるようにして、より効率的な学習につながるように工夫したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	必修	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	テキスト「Cultural Leaders in America Today 2」と「TOEICテスト」にできる順英単語は学科CPの英語・日本などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う教材として適していると思われる。テキストの難易度の観点から、和訳の予習は不可欠な為、準備した和訳用紙を学生に配布し予習を徹底化した。和訳用紙には単語欄と和訳欄と評価欄を設け、各自で和訳用紙を作成するように指導した。また予習時における達成感および難易度を認識させるために、達成マークを評価欄に記入するように指導した。ちなみに達成マークはABC段階で表記した。この予習に基づき、授業において、予習した範囲の和訳を学生に発表させ、全員で確認作業を行い、和訳の修正および加筆を行った。この作業と同時に、授業では難易度の高い英文の文法解説、内容に関する補足説明を行った。予習用紙は毎回、授業後に回収し、各学生の学習意欲および理解度を確認する作業を行った。また学期末には完成させた和訳を全て提出してもらった。「TOEIC単語集」に関しては、毎回の授業で小テストを行った。その際、単語の発音、反意語、同義語の解説を行い、学生の暗記作業の効率化に努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は75点であり、再試対象者は11名であった。評価の対象は定期試験、単語テスト、多読レポート9週間分、CHieruマイル数の達成であったが、課題対象が多すぎたためか、定期試験の点数が伸びなかった。また多読レポートに関しては、授業中に書いて提出するなど課題をクリアすることのみに意識が集中し、内容が伴っていないレポートが多く見られた。学生の能力に見合った学習内容の検討が必要だと考えられた。また英語学習に対して前向きに努力する学生とあまり関心を示さない学生があり、クラス全体の学習レベルを均等に保持することにはかなりな工夫が必要であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP.カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性:長文の読解ができる、習慣として英文を読むことができるなどは多読レポート提出義務や和訳の予習、TOEIC単語暗記等で大多数の学生が体得できたと思われる。②DP.行動目標からみた内容的妥当性:DPの評価に関しては大多数の学生が各項目について平均的評価を示していることから授業内容にほぼ納得していると考えられる。しかし「職業倫理や行動規範について学ぶ」「職業選択の選択参考」の項目は、比較的低い評価を示す学生があり、英語学習と職業倫理や行動規範との関連を理解することが難しかったのではと考えられる。しかし全体的に英語学習における自己目標や達成より授業内容や指導についての評価の方が全体的に高く、以上のことから本科目の目的になっていると判断し、内容的妥当性には問題がないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:「テスト、レポート、提出物の評価基準」「学習の範囲や課題の明らかさ」は評価が高く、オリエンテーションでの説明と授業中での指示を理解していたと考えられる。「説明は理解しやすかった」の評価は比較的低かったが、これは学生の英語力に差があるために、過剰な説明だと感じる学生、あるいは簡略化されすぎて説明不足と感じる学生が多かったからだと考えられる。②学習量の評価:予習に一時間以上の時間を要した学生が6割、復習は6割の学生が行っていなかった。このことから課題に多くの時間を取られていることが分かる。確かに和訳、多読、単語暗記と課題はかなりの量であったが、真面目に取り組んでいたことが成績評価に表れている。③情報利用:シラバスを参考にした学生は半数であり、シラバスあるいはオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生も半数以上であった。しかし、新1年生であることから、シラバスの内容理解にまでは至っておらず、オリエンテーションにおける授業計画を的確に明確に伝える必要性を強く感じた。④図書館利用:大多数の学生が図書館の利用を行っていた。これは情報収集というよりも多読レポート用図書への貸し出しの為と思われる。新1年生の中には大学における英語学習を受験英語の延長と考えている学生が多く、図書館利用とは無縁だと考えている学生もいる。オリエンテーションにおいて授業内容の説明だけでなく、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テキストの難易度が比較的高かったために、予習や自己学習で苦労している学生が多かった。しかし、知らない単語や語彙は必ず調べてくるようにと指導したので、授業中に文法解説、内容などの補助的な説明をすると自力で和訳ができ、学期末の和訳用紙には全ての書き込みを完了していた。これが学生の自己達成度が高い評価を示す結果となったと考えられる。また、多くの課題や難解な和訳に挑戦する姿勢がクラス全体に形成されていたこともプラスに作用したと考えられる。学年やクラスの雰囲気によっては、多くの課題や難解な問題を敬遠する場合もあるが、これをいかに学生の達成感へと繋げるかが今後の重要な課題となると考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初級英文講読	2	前期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	テキスト選択に当たっては英語の学力向上だけに止まらず、英単語の由来やその裏に隠された文化や歴史を克明に語ったエッセイを通じて英語の歴史や文化に対する知的好奇心も養ってもらいたいと考えて、一般的な小説類ではなく、知的エッセイを選びました。採用したテキストは、年間30回の授業を前提に編集されたものですが、各項目は完全に独立したエッセイですので、テキスト後半については後期開講の『中級英文講読』に引き継ぐことにしました。英文読解だけに偏らないように、常にネイティブ録音のCDを聴いてもらい、さらには各項目ごとにディクテーション(英文の書取り)を小テスト形式で実施することにしました。ディクテーションのための解答用紙、課題の記入用紙、各課題の試訳や正解例を印刷配布するための準備をして授業に臨みました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	シラバスに記載の通り、最終評価の70%を占める学期末試験を、平均点が70点前後になるように難易度を調整して出題しましたが、結果として全受験者の平均点が100点満点で約75点であったこと。最終評価の30%を占める小テスト(授業中に取り上げなかった項目について、本文の全和訳とディクテーション以外の全問題の解答を自宅での課題として提出してもらい、採点した評価も含む)平均点が100点満点に換算して80点に近かったこと。2名の授業放棄者と数名の欠席多数者を除いて、全受講生の半数近くが一度も欠席がないことでも明らかのように、受講生全体の出席率が非常に良く、授業への参加度が極めて高かったこと。これらの諸評価を総合して全般的に「達成された」と評価しました。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけは、単に英語力向上を目指すだけでなく、大学生として英語の背景にある歴史や文化にも興味を持ってもらいたいという目標掲げる本授業は、十分に妥当であると考えます。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	言うまでもなく綿密な準備の後に授業に臨んでいますが、現実には不測の事態も起こり、今回、受講者の約3分の1がテキスト未入荷で間に合わず、急遽、授業を中断して、当日使用する箇所をコピーして配布し、授業を続けましたが、このような不測の事態への対応も授業担当者の課題の1つと考えています。 また特に選択科目では、初回の授業や2回目の授業に暫定的に出席して、2回目から、あるいは3回目から受講を始めるという受講生もいて、初回からテキストを用いて本格的に授業に入ることが出来ませんので、最初は、どうしても授業の説明やオリエンテーションを主にせざるを得ませんが、今後、少しでも改善できないか、その方策を考慮中です。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	4の「学生の目標達成状況について」の項目でも述べましたが、一部の長欠者を除いて全体的に授業への参加度が高かったので、授業の進行もスムーズで、やり易かったし、また担当者としてのやりがいを実感することが出来ました。 今後も、受講生が全員、足並みそろえて、当初の授業目標を十分に達成するためには、今後も小テストや課題など、かなりの頻度で実施したり、常時、課題を課すなどの、予習復習を励行してもらう手段を講じなければならないと考えます。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	林 裕二

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
マルチメディア・イングリッシュ基礎	2	前期	必修	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	次の三つのプロセスを示した。1. 授業でE-Learning のCHleruのダイアログとモノローグをE-Learningで行う。2.それについてのプリントを配布して、それを次回授業までに調べておく。3. 次回授業でプリントの音読と課題を確認をする。学生は、1と3を授業で、2を授業前にするという規則的なパターンで学習習慣を身につけるようにさせた。2で、プリントをしておくということで、学習準備ができていたことがどういことであるかを示した。自由記述として、4. 学習量の評価(4)授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「課題で十分だった」からとあった。このことも課題の妥当性が示されていると思う。受講動機としては、①必修科目である(84.6%)、④単位数を確保する(11.5%)は当然として、③関心のある内容である(7.7%)が次に高い。③が示すのは、インターネットを使い、英語学習をすることの効率性、一斉指導ではない個別学習の場面が多くあり、一人当たりの英語への接触時間が長く、学習効果が実感できているのではないかなと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された			やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は27名の履修者中、A(9名)、B(10名)、C(6名)、D(2名)である。最後の授業で音声の課題を出したが、そこでは英語の意味を意味単位で把握して、伝えることができることが示された。これは行動目標の一つ「基本的な母音と子音の聞き分けができ、その正確な発音ができる」ができていたことをベースにしておき、この行動目標が達成されたといえる。到達度自己評価の「(1)自分なりの目標を達成した」から「(10)職業選択の参考になった」までの10項目の平均は3.76である。到達度自己評価の「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は、③まあまあそうだと思うから、⑤かなりそう思うまでが、回答者26名中の24名である。特に⑤が7名である。また「③事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」では、③まあまあそうだと思うから、⑤かなりそう思うまでが、24名である。これにより知識理解は達成できたと考える。学生がそう評価した理由には、CHleruの提供した多様な社会的話題にもあると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の3、4年生のカリキュラムでは、これに相当する科目は、1年前期に設けられていた。そこでは英語の必修科目が1年次に集中して置かれていた。現在の1、2年生のカリキュラムでは、1年次に加えて、2年次でも英語の必修科目を設けるといことで、この科目が2年次に移される形で設けられた。授業評価の自由記述では、1. その日の振り返りをした、2. わからないことを調べた、3. 復習した、5. YouTubeで英会話の家族を見た等があり、学生の自立的な学習につながっていることがわかり、1年次よりゆとりを持って自分の学習ペースを確立できており、2年前期にこの科目を設けることの妥当性があると思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	担当教員への意見として、1. 説明がわかりにくい。もっと授業のレベルを上げてほしいとあります。これに対しては、次年度のこの科目では、そしてこの授業に内容的に続く、後期科目のマルチメディアイングリッシュ応用はで、もう少し説明を丁寧になります。具体的には、声だけの説明ではなく、PPTを使つての説明をします。授業のレベルは全体のレベルの向上も大事ですが、マルチメディア教材の利点を生かして、より上の力をつけたい人には満足していただけるような教材の提示をします。学習の質評価の「(1)テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」から、「(5)口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の5項目の平均評価は、3.86。最も低いのは、「(3)説明は理解しやすいものであった」の3.63、最も高いのは、「(2)期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の4.0である。学習量の評価では、「(1) 授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」に対して、⑤6回を選んだのが最多で、13名、「(2) 授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」に対して、③2, 3回を選んだのが最多で、7名だった。予習型の授業としてとらえられていたことがわかる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	次の四つをシラバスでは達成目標として示した。1、3については客観的に根拠を担保できるが、2、4については難しい。4は英語の授業ですべきことかどうかも含めて、次年度は見直す必要があるかもしれない。 1 CHJeru の1,500(学習)マイルを達成できる。 2 TOEIC の400 点レベルのリスニングができる。 3 基本的な母音と子音の聞き分けができ、その正確な発音ができる。 4ディスプレイを見ながら、ブラインドタッチでの基礎的な入力ができる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マルチメディア・イングリッシュ基礎	2	前期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	E-learningのCHleruを教材として英語を多面的に学ぶことを目的にしています。マルチメディア教室で学生が各自、PCを使用して自分のスピードで学習できることに大きな利点があります。特に各自の能力にあったスピードで学習が繰り返しできることから、学生一人一人のリスニングの向上と発音の上達を目標としています。具体的にはTOEICの400点レベルのリスニングができ、さらに基本的な母音と子音の聞き分けができ、その正確な発音ができることです。またディスプレイを見ながら、ブラインドタッチでの基礎的な入力ができることを目標にしています。そのため学生各自のPC学習の監督には特に力を入れ、またリスニング問題のスク립トから文法問題を作成し、授業中に配布実施を行い、学生のリスニング問題への理解度を更に深められるように配慮しています。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は84点であり、再試対象者は2名であった。必須科目のため、DPの評価において、大多数の学生が真剣に取り組んだことが推測される。特に「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」「意欲を深めることができた」等を高く評価した学生が多かった。これらはCHleruの内容を繰り返し学習し、文法問題で内容を定着させることで、自分なりの目標を達成できたと実感した学生が大多数であったからだと考えられる。全体的に英語学習に対して前向きに努力する学生が多く、クラス全体も意欲的な雰囲気形成されたようである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性:リスニング力強化を目標に、TOEICや英検などのリスニング対策をあわせて行うことで、ツーリズムおよびビジネスの専門科目の体系的学習を可能とする効果をで大多数の学生が体得できたと思われる。②DP,行動目標からみでの内容的妥当性:DPの評価に関しては大多数の学生が各項目について高い評価を示していることから授業内容に納得していると考えられる。特に「職業倫理や行動規範について学ぶ」「職業選択の選択参考」の項目は、他科目及び他学科においては比較的低い評価を示す学生が多い中、本科目においては高評価を示している。以上のことから本科目の目的にかなっていると判断し、内容的妥当性には問題がないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:「テスト、レポート、提出物の評価基準」「学習の範囲や課題の明らかさ」は評価が高く、オリエンテーションでの説明と授業中での指示を理解していたと考えられる。「説明は理解しやすかった」も評価が高かった。また学生は各自のスピードで学習できる環境から、ゆとりある語学学習ができたことに満足感と達成感を感じていたと考えられる。②学習量の評価:CHleru1500マイル以上の達成を課題にしていたので、予習復習を兼ねて各自でリスニング問題に取り組んだことが、学習量の評価につながったと考えられる。③情報利用:シラバスを参考にした学生は半数であり、シラバスあるいはオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた学生も半数以上であった。しかし、シラバスの内容理解にまでは至っておらず、オリエンテーションにおける授業計画を的確に明確に伝える必要性を強く感じた。④図書館利用:大多数の学生が図書館利用を行っていなかった。英語学習は図書館利用とは無縁だと考えている学生もいる。オリエンテーションにおいて授業内容の説明だけでなく、多彩な内容を英語で学習するためには情報収集も大切な語学学習の一つであることを指導する必要があると感じた。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	E-learningのCHleruを教材として、PCで学習するメリットが最大限生かされ、これが学生の自己達成度が高い評価を示す結果となったと考えられる。また、リスニング練習を通して、学生各自が自身の弱点に気づき、改善点を模索するという効果も得られた。さらに多くのリスニング問題に挑戦する姿勢がクラス全体に形成されていたこともプラスに作用したと考えられる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	Marne Saddy

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中級英会話	2	前期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into discussion and presentation based learning. By listening and reading about relevant social issues, students practiced intermediate to high level language comprehension. Students also learned to formulate and express individual opinions, while at the same time learning to positively respond and react to opposing opinions and conflicting ideas. After extensive textbook related activities and discussion of the issue, students were encouraged to prepare and present on the current topic in front of the class.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Assessment was based on attendance 10%, active participation 20%, homework and presentations 30%, quizzes 20% and a final test 20%. Final grades were mostly in the 60-80% range.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students took advantage of helping and receiving help from other class members, by working together in small groups. Good classroom dynamics created a positive and "safe" class atmosphere in which students felt more comfortable taking risks when expressing themselves in English. This, in turn, contributed to a high level of participation and increased understanding of the material.
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	60 students in an active learning language class proved difficult to monitor. Communication based activities were largely successful, however, in some cases students lacked the ability to self-regulate, making for a less than perfect learning environment.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	Strict use of student seating plan, attendance taking, active monitoring of homework and in-class activity completion is an absolute necessity with an active learning class of this size.
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
入門中国語会話	1	前期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①一年生を対象とする授業で、ほぼ全員が中国語を初めて学習するので、中国語の特徴と学習方法を説明する。中心に中国語の発音、基本文法の学習、会話の練習を通して、中国語の言語話方、習慣の表現などの特徴を理解し、基本応用能力を身に付ける。更に中国語に対する理解を深めるために、中国の歴史、文化、中国事情を適宜に紹介する。②学生の学習への意欲を高め、学習状況を確認するため、ユニットごとに確認テストを行う。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試験対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90以上として試験作成)に達したものは39名となった。学生による授業評価においては、知識を確認、修正したい、新たに得ることが出来たという観点での自己評価は「かなりそうだと思う」とあり新しい知識を身に付けることができたと考えられる。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意識を持つことが出来た」という項目や「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」という項目においてはそれぞれ30と高い数値であったため技能表現の評価は達成されたとしている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラム上の位置づけから見ての内容的妥当性。本科目は「専門教育科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門展開科目」を繋ぐ要の位置にある。内容的には妥当であるとする。②DP,行動目標から見ての内容的妥当性。異文化、多言語の領域の成績は上昇したことから内容的には妥当であったとする。③纏め以上からの内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「テスト、レポート、提出物等評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見を纏める、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文章などで学生の質問を受け付け、答える機会が作られていた」については高く示されていた。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形式については概ね達成できたが、コミュニケーション能力の面で課題を残した。この点は「専門基幹科目」で引き続いて指導する予定である。学生に中国語で日記を書いてもらっているが、次年度により綿密に実施することを行いたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
実用中国語会話	1	前期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 実用中国語会話の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の20.0%を除いて、③「関心のある内容である」は100%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においてもう少し考慮していく必要があると考える。 3. 「教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場面を増やしていくことができるように工夫したい。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 最終的な成績の平均値は「84.6点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解、(DP-3)の意欲関心、(DP-5)の技能表現をみると、将来の地域社会を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点4.1点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.5点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	1. 「授業の質の評価」について、数値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に 利用できるように促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	1. 実用中国語会話は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎中国語	2	前期	選択	いいえ	49

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	基礎中国語は生活場面の会話文の学習、基礎文法の学習を中心とする授業である。入門、初級中国語会話、実用中国語会話、中国語入門等の授業で学んだ基礎知識を復習しながら、文法、会話を中心に進み、総合的な能力を高めるためにできるだけ会話の練習をしてもらう。学習者の自信を引き付けるようにしてきている。 中国語で日記を書く練習することを重視に置くこと。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験作成)に達したものは30名となった。目標別にみると、知識理解、技能表現に関して80%だった。学生による授業評価においては、①授業の課題以外に学習していない理由としては授業の中だけで十分だったから、授業のことだけで精いっぱいだったから。課題が多かったから、余裕がなかった。などを挙げられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見ても、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業評価においては「いつも楽しく授業が受けられました」「中国語初めてで分からなかったけど優しく教えてくれてありがとうございました」などがあったが、学習者の発表時間が想定より少なかったことも反省点である、教科書もやや難しかったこともあった。次年度に向けて、学習者に積極的に授業に参加する工夫を凝らしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	基礎的な知識だけでなく応用能力を高めるために毎回の狙いを具体的に示すこと。可能な限り会話練習を取ること。予習課題の提示などで改善を図る。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中級中国語	2	前期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	中級中国語はすぐに役立つ生活場面の会話文を学習する。入門、初級中国語会話で学んだ基礎知識を復習しながら、口語文を中心に進み、基礎的な中国語の総合的な能力を高めるために、できるだけ会話の練習をしてもらう。学習者に学習自信を引き付けるようにしてきている。更に文法の理解を確認するために、中国語で日記を書いてもらうことを指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は86点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験作成)に達したものは39名となった。目標別に見ると、知識理解、技能表現に関しては88%であった。学生により授業評価においては、①、授業の課題以外に学習していない理由として、他の課題があったから、課題に追われていたから、時間がなかった。などが挙げられている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP, DPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見、内容的妥当性には問題はないと思われる。学習到達度の自己評価に関して、学生自身の目標の達成、知識を新たに得ること、コミュニケーション、表現力の向上などがかなりできたと高く評価された。授業の質評価に関して、説明は理解しやすいもので、授業中に、自分の意見を纏め、話し合う、発表するなど学生参加する機会が作られていたとの評価が高かった。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業評価においては「説明は分かりやすかったですが」「中国語に興味を持って聞いた」などがあつたが、学習者の発表時間が想定より少なかったことなども反省し ている。次年度に向けて学習者が積極的に授業に参加する工夫を凝らしていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	基礎的な知識だけでなく、応用能力を高めるために毎回の狙いを具体的に示すこと。会話練習時間を取ること。予習課題の提示等の改善を図ること。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジア文化交流研修 B	1	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」43. 8%、「関心のある内容である」84. 4%となっております。多くの学生がこの授業と上海での研修に関心があると思われる。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は93. 1点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。目標別に見ると、知識理解に関しては97. 2%、意欲関心に関する問題は94. 4%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、5. 5%、19. 4%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度が割に高いレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジア文化交流研修B」であるが、「海外留学・仕事・国際交流」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、2021年度(上海での研修を行われる予定)に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作 っていききたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「海外留学・仕事・国際交流」をつなぐ要の位置にある「アジア文化交流研修B」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	友原 嘉彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化論	1	前期	選択	いいえ	39

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では米国におけるリベラルと保守の文化、考え方の違いについて取り上げ、比較考察した。リベラルと保守の間で各種の格差が広がる中、保守はなぜ保守（のまま）なのかというメカニズムについて検討、保守とどう対話するか、保守をどう社会に受け入れていくかということについてまで全員で考えた。これにかかり、以下の工夫をした。 ①テキストとして、A. R. ホックシールド著、布施由紀子訳(2018)『壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き』岩波書店を用いた。全員、用意してもらったのはもちろん、予習として予め授業で進みそうなどところまで読んでもらうことで、授業前における一定の理解を促した。 ②テキストは専ら予習用、確認用に使い、授業では担当者によるオリジナルの解説プリントを配布し、これに基づいて講義を行なった。 ③期末試験は実施せず、3回に渡るレポートを課すことで代えた。レポートの評価は「秀」10名、「優」15名、「良」15名、「可」4名、「不可」1名（未提出）であった（定期試験受験不適格者4名を除く）。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された			やや達成された		やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は39名であり、昨年同時期の11名から3.5倍増となった（但し、昨年は金曜の5限、今年は同4限である）。学年は2年生が1名のほかはすべて1年生であった。今期の当授業の特徴としては、1年生メインであったこともあり、授業の前提となるリベラルと保守の違いを理解してもらうのに時間を要さなければならなかった点である。 授業評価アンケート（回答者29名。以下同）によると、図書館の図書・雑誌を利用したのは2名、CiNiiなど学術データベースを使用したのは3名であった。インターネットを使用し、（一般的なサイトにより）検索などを行なった者は5名という結果となった。 出席状況については、皆勤が11名と31%を占める（定期試験受験不適格者を除く）など、概ね良好であった。1年生メインであり、特段の事情がない限り、出席してくれた。 当科目の単位自体は定期試験受験不適格者を除き、35名中34名に付与することができた。その内訳は「秀」2名、「優」18名、「良」10名、「可」4名であった。「優」から「良」にかけての中位層の比率が高い結果となった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケートによると、「受講動機」は「関心のある内容である」と「単位数を確保する」が12名ずつで選択率41%であった。次いで「友人が履修している」が8名（28%）であり、1年生という時期ならではの結果となった。 「到達度自己評価」は10項目あるが、すべて3.1から3.7の間の評価であった（5点満点）。最高である3.7は「自分なりの目標を達成した」であった。3.1であったのは「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」であった。授業担当者としてはそれなりの頻度で学生の意見を聞く機会を設けたという認識であったが、3.1という3＝「まあまあそうだと思う」に近い数値となった。しかし、「自分なりの目標を達成した」が中央値4である以外は、9項目のどれもが中央値3と狭い範囲にまとまった結果となった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートによると、予習時間は最も多かったのが0の16名、次いで、1時間半～3時間の6名、30分～1時間の4名という順であった。但し、5時間半以上も2名いた。復習時間も最も多かったのは0の16名であった。次いで、1時間半～3時間の6名、30分～1時間の5名という順であった。これも5時間半以上が2名おり、0の者とは相当な理解の差が生じたのではないかと考える。なお、成績の「秀」は2名であり、5時間半以上の予習・復習をした者の数と一致する。ノートテイクはした者が16名、しなかった者が13名と2つに分かれた。成績の「秀」・「優」は20名、「良」・「可」・「不可」は15名であり、相関関係がありそうである。 授業アンケートの自由記述では、「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」として「何をすればよいかわからなかった」という回答が多かったが、まず授業の課題・予習復習に取り組んでいただければと考える。「担当教員への意見」には「ありがとうございました！！」とあり、良かったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ここでは総括として授業評価アンケートにおける「授業の質評価」を見てみよう。5項目あるが、先の「到達度自己評価」よりもさらに点数は上がり、すべて3.3から3.9の間であった(5点満点)。3.9は「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、3.3は「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」と「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」である。3.3の2項目は授業担当者としてはこのような機会をしっかりと設けた認識であったが、さらに時間を取るよう努めたい。上述したように、1年生のこの時期にも関わらず、「やる気」の量として、大きく2つに割れてしまったのは残念である。1年生のうちからしっかりと教養を身に付けてもらえるよう、さらに鋭意努力したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
アジア観光文化地理Ⅰ	2	前期	選択	いいえ	56

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」60.4%、「関心のある内容である」60.4%となっております。もっと学生の関心を引き出し、もっと多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90.4点であり、再試験対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。 目標別に見ると、知識理解に関しては97.8%、技能表現に関する問題は97.8%であった。それぞれの目標が達成されたことを示している。 学生による授業評価においては、知識理解、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。 図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、8.1%、16.3%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、技能表現に関する達成度が割に高いレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジア観光文化地理Ⅰ」であるが、「海外研修」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、次年度に向けては、学生がもっと積極的に参加することが出来る機会・環境を作っていきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	「海外研修」をつなぐ要の位置にある「アジア観光文化地理Ⅰ」であるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、技能表現を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2019年度前期

学科	観光文化学科
氏名	池口 功晃

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ビジネス演習	2	前期	必修	はい	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は将来の就職および就職後を見据えた学科必修の演習・研究科目である。授業の実施にあたり重視したことは具体的事例を踏まえながらビジネス社会の現状を説明してきたことである。この点、学生の自由記述には「とてもタメになる授業であった」「社会に出る上で教養として知っておいたほうがいいものとか教えて頂いたのもとても勉強になった」といった意見が寄せられていたことから一定の効果があつたものと考えている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DPに関してはすべての項目で平均値4.1以上となっていることから概ね達成できたと考えている。また、前述したように学生の自由記述には「とてもタメになる授業であった」「社会に出る上で教養として知っておいたほうがいいものとか教えて頂いたのもとても勉強になった」といった意見が寄せられていたことも根拠として挙げられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DPに関しては前述したようにすべての項目で平均値4.1以上となっていることから本科目の内容的妥当性はあつたものと考えている。また、本科目は1年次を終了し、3年次から始まる専門演習へつなぐ科目としての位置づけがなされていることからCPからみても内容的妥当性はあつたものと考えている。以上より内容的妥当性については問題がないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本授業については毎回レジュメを作成し、2回ほど小テストを実施した。前述したようにDP目標は概ね達成したと思われるが、知識の定着をより図るため次年度以降はもう少し小テストの回数を増やしたいと考えている。ただし、学生からの自由記述はとてもタメになった等の意見が寄せられているため、「図書館、インターネット利用」を積極的に取り入れる形でビジネス社会を取り巻く現状をさらに詳しくかつわかりやすく説明したいと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は新カリキュラムの初年度に当たり、どのような授業構成にしていくか試行錯誤の中進めてきた。授業のアンケート結果を見る限り、DPは概ね達成し、また授業の質の評価も高かったことから一定の授業成果があったものと考えている。今後は学生に「図書館・インターネットの利用」を促しながら、積極的に授業を受けていけるような工夫をしたいと考えている。
-------------------------------	---